

種 類	月 計	正統院ノ裁決										卿ノ判決										局限ノ裁決										總 計	比 較	前 年			
		決裁	指達	小計	諸判	決令	指達	小計	諸復	小計	諸復	決令	指達	小計	諸復	小計	諸復	決令	指達	小計	諸復	決令	指達	小計	諸復	小計	諸復	決令	指達	小計	諸復				決令	指達	小計
	七月	七	一	八	六	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
	八月	三	三	六	九	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	
	九月	三	三	六	九	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	
	十月	三	三	六	九	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	
	十一月	三	三	六	九	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	
	十二月	三	三	六	九	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	
	一月	三	三	六	九	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	
	二月	三	三	六	九	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	
	三月	三	三	六	九	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	
	四月	三	三	六	九	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	
	五月	三	三	六	九	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	
	六月	三	三	六	九	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	
	通計	二九	一〇	三九	四〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	

勸業寮

沿革ノ概要

爰ニ本寮ノ起原ヲ尋ヌルニ大政維新ノ後朝廷風ニ民業ヲ勸メ物産ヲ開クヲ以テ時務ノ急トナシ明治二年四月八日始テ民政部官ヲ置キ主トシテ開墾物産等ノ事務ヲ處辨セシメ五月三日官中更ニ開墾局ヲ設ク六月廿三日民政部大藏兩省ヲ駢置シ以テ民政ヲ管理ス三年八月兩省分轄ニ際シ物産開墾種藝等ノ事務ヲ民政部ニ屬ス四年正月廿日大藏省通商司ノ主掌セル牧畜ノ事務ヲ以テ民政部ニ屬ス七月廿七日民政部省廢セラレ大藏省中ニ勸業司ヲ置カル八月十日司ヲ陞セテ三等寮トナシ尋テ勸農ト改稱ス五年十月九日勸業寮ヲ廢シ姑ラク其事務ヲ租稅寮ノ外部課中ニ屬シ幾クモナク勸業課ノ設ケアリ七年一月九日內務省中勸業寮ヲ置カレ以テ農工商及ヒ編纂ノ四課ヲ管理セシム八年九月廿四日寮中ノ規程ヲ釐革シ更ニ課ヲ設クル第一ヨリ第十二至ル其第一課ハ庶務受付往復淨書用度第二課ハ會社魚獵第三課ハ編纂報告製表

第四課ハ牧畜、開墾農具、第五課ハ植物、虫魚、種庫、第六課ハ學校、農業、博物
館、分析、第七課ハ養蠶、製糸、製茶、第八課ハ漆器、陶器、染工、其他百工、第九課
ハ商業、第十課ハ博覽會ノ事ヲ分管シ課外ニ寮頭付書記ヲ置ケリ九年
五月十一日勸商局ノ分置ニ際シ乃チ商務ヲ割テ之ニ屬セシム是レ勸
業事務沿革ノ大略ナリ

植物ノ件

植物掛ノ起原ハ明治三年九月民部省勸農局中種藝課ヲ置キ後大藏省
租稅寮ニ屬ス明治五年十月内藤新宿ニ於テ試驗場ヲ設ケ種藝ノ事ヲ
掌ル七年一月此事務内務省勸業寮農務課ニ歸シ樹藝掛ト稱シ八年九
月第五課ト改稱ス其事業タルヤ博ク内外ノ植物ヲ聚集シ其良否効用
等ヲ鑑別シ耕耘ノ得失培養ノ適否害虫驅除ノ方法等ヲ講究シ或ハ内
外ノ農書ニ參シ或ハ實驗ノ說ヲ採リ又其種子ヲ海外ヨリ購求シテ種
庫ニ藏シ各府縣及ヒ人民ノ請求ニ應シ有益ノ事業ヲ發見セハ之ヲ勸
業報告ニ掲ケ一般農事ノ進歩ト種類ノ改良トニ注意スルヲ以テ本務

ト目今所屬ノ地二十七町三反三畝八歩ニシテ園地ヲ區畫シ一田六
園トナシ以テ植物ノ部門ヲ分テ目今栽培スル所ノモノ凡ソ千六百餘
種別ニ驅虫劑草木園アリ又叢會園ヲ設ケテ諸植物每一品ヲ栽植シ人
民ヲシテ其品名効用等ヲ知ラシムルニ便ス即チ各所ニ培植スル所ノ
品目ヲ掲ケルヲ左ノ如シ

植物田園一覽表

菓樹園	本		前	
	種	株數	種	株數
蘋果	一〇	二九五四	一	九一七
梨	一	七四二八	一	五二八
桃	四二	一七九三	八	七二〇
杏	三〇	一三二四	二	一六〇
櫻	四	一三三九	四	一一九
李	一	一六七七	六	六二二
楓	四	二八八	六	一五二
巴旦杏	一	五二	一	四〇
柑	一	二二	一	一〇

[illegible][illegible]

[illegible]

足柄	埴谷	熊木	朽梨	山崎	長野	福岡	豊岡	新川	和川	石川	敦賀	高知	愛媛	三浦	佐賀	福岡	名東	鳥取	大分	白川	長崎	小田	岡山	濱田	
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	
二 升	九 、	二 、	一 、	四 合	一 〇 、	一 〇 、	一 〇 、	九 合	三 、	八 、	八 、	二 、	六 、	五 、	九 、	一 五 、	七 、	八 、	九 、	三 、	三 、	二 、	一 〇 合	一 四 、	
一 五	九	一 五 六	一 六 二	一 六 六	八 八	五 一	五 五	一 六 一	六	二	五 五	九 五	八	四	二	六	九 五	五	一 五 二	一 六	一 八 一	九	七	七	三 八 二
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	
八	八	二	二	二	二	二	二	二	六	二	七	二	八	二	二	二	八	二	二	二	二	二	二	二	
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	
二 三	九 日	三	三	三	三	三 〇	三 〇	三 〇	二 四	三 六	三 八	四 〇	五 九	三 〇	三 〇	五 五	九 五	三 〇	三 三	三 三	五 九	三	三 一	三 二	
												、													
												一 五													
												二 五													
												六 二													
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	
一 株	二 、	三 合	七 、	二 、	二 、	六 、	二 、	二 、	二 、	二 、	二 、	二 、	二 、	二 、	二 、	二 、	二 、	二 、	二 、	二 、	二 、	二 、	二 、	二 、	
三	二	一	二 二	一	一	五	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	
			、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	
			、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	
			、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	
			、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	
			、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	
			、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	
			、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	
			、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	
			、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	
			、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	
			、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	
			、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	
			、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	
			、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	
			、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	
			、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	
			、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	
			、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	
			、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	
			、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	
			、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	
			、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	
			、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	
			、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	
			、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	
			、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	
			、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	
			、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	
			、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	
			、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	
			、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、							

[illegible][illegible]

二百六十六

本年	前年
1990	1989

二三八七

	本年	前年
(一) 流动资产	70,689,000	68,689,000
(二) 长期资产	29,311,000	31,311,000
(三) 负债及所有者权益	100,000,000	100,000,000
(四) 总资产	1,000,000,000	1,000,000,000

計

岩手	水澤	白川	豐岡	磐前	山形	長野	千葉	足柄	總計	前年増	比較減
、	、	、	、	、	、	、	、	、	七七	四九	
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二八		

農具ノ件

夫レ農具ノ便良ナルハ農業ヲ開導スルノ要器ニシテ最モ購究セズン
ハアルヘカラス曩ニ勸農寮ヨリ府縣ニ令シテ遍ク蒐輯セシ各地慣用
ノ田器アリ今之ヲ當寮支廳ノ農業博物館ニ陳列シテ諸人ノ縦覽ニ供
シ又多ク外國ノ耕具ヲ購求シテ植物掛動物掛ノ需用ニ應シ其佗實地
ニ施シ果シテ効用アル者ヲ模造スルコト大小大約二千品ニシテ各府縣
ノ需用ニ應セシ者モ亦コレアリ其詳カナルコトハ次ノ二表ニ就テ觀ル
ヘシ

内外農具員數増減比較表					内外農具貸與増減比較表				
年數	府縣名	千	葉	岐	年數	府縣名	千	葉	岐
本年	千	五	四	八	本年	千	五	四	八
前周	千	三	八	七	前周	千	三	八	七
本年	千	六	五	七	本年	千	六	五	七
前周	千	一	四	九	前周	千	一	四	九
本年	千	八	九		本年	千	八	九	
前周	千	一	八	〇	前周	千	一	八	〇
本年	千	二	一	四	本年	千	二	一	四
前周	千	一	五		前周	千	一	五	
本年	千	三	八	七	本年	千	三	八	七
前周	千	三	八	七	前周	千	三	八	七

前周年	本周年
一六	一二
二七	一〇
一一	二
二	四二
一二	六二
二〇	

鶏卵試験ノ件

鶏鴨鵝及其卵ハ温補滋養ノ効アリテ食料ノ要品トス然ト雖母鶏ノ
 孵化スルヤ限アリテ人口多キ地方ニテハ治チク食用ニ給シ難キモノ
 アリ海外各國ニテハ温器ヲ以テ之ヲ孵化スルノ方法アリ内國ニモ近
 年此法ヲ試ミシ者アリシカ未タ其術ヲ盡サスシテ中止セリ蓋シ清國
 及ヒ埃及ノ如キハ其法古代ヨリ行ハレ殊ニ埃及ノ政府ハ委員ヲシテ
 其事ヲ幹理セシムト聞ク近代ニ至テハ歐洲各國ニテモ其法盛ニ行
 ハレ佛國ノ如キハ其法最モ精巧ニシテ數種ノ孵卵器ヲ發明セシカ其
 器タルヤ却テ過巧ニシテ使用ニ便ナ
 ラス且其高價ナルヲ以テ輒ク之ヲ購
 求シ難シト清國ノ温器ハ其法簡便ニ

入器	孵卵一類	三五六〇
出器	孵卵一類	一七八〇

孵卵試験表 明治九年 三月

現賣	一三九
種賣	二九六
種賣	四〇五
種賣	二五五
種賣	一五〇

シテ極メテ實用ニ適シ其價モ亦廉ナ
 リ故ニ本年二月同國陸亭瑞、仇金寶ノ
 二人ヲ招儲シ本寮委員ヲシテ其事ヲ
 監理セシメ數次試験ナシ本年三月
 ヨリ六月ニ至リ果シテ孵卵ノ成功ヲ奏シ其生育天然母鶏ノ孵化セシ
 モノト絶ニテ異ナルヲ知シ其法ノ如キハ編述シテ之ヲ人工孵卵法ト
 題名
 中名ニテハ「孵卵法」トス
 ス今ヤ其試験表ヲ製スル「此ノ如シ

明治七年三月始テ内藤新富支應農務課中ニ養蠶掛ヲ置キ廳内固有ノ
 桑樹ヲ培養シ以テ本邦及ヒ歐洲其他ノ蠶種ヲ試験セリ而シテ是年五月
 養蠶試験着手ノ順序ヲ立テ預メ桑園栽培ノ目途ヲ定メ各地方現在桑
 樹ノ品種及ヒ栽培法等ヲ知ラシカ爲ニ福島、置賜、宮城、山梨、長野、筑
 摩、滋賀、豐岡、新潟ノ十縣ニ令シ蠶業熟達ノ者ヨリ經驗ノ諸説ヲ上申セ
 シメタリ

本周年	一六	一二	一四	四二
前周年	二七	一〇	一一	二二
				六二
				二〇

二百七十

孵卵試驗ノ件

鶏鴨鵝及其卵ハ温補滋養ノ効アリテ食料ノ要品トス然ト雖モ母鶏ノ
 孵化スルヤ限アリテ人口多キ地方ニテハ洽チク食用ニ給シ難キモノ
 アリ海外各國ニテハ温器ヲ以テ之ヲ孵化スルノ方法アリ内國ニモ近
 年此法ヲ試ミシ者アリシカ未タ其術ヲ盡サスシテ中止セリ蓋シ清國
 及ヒ埃及ノ如キハ其法古代ヨリ行ハレ殊ニ埃及ノ政府ハ委員ヲシテ
 其事ヲ幹理セシムト聞ク近代ニ至テハ歐洲各國ニテモ其法盛ンニ行
 ハレ佛國ノ如キハ其法最モ精巧ニシテ數種ノ孵卵器ヲ發明セシカ其
 器タルヤ却テ過巧ニシテ使用ニ便ナ
 ラス且其高價ナルヲ以テ輒ク之ヲ購
 求シ難シト清國ノ温器ハ其法簡便ニ

孵卵試驗表 明治九年 三月

入器	三、五六〇
出器	一、七八〇

現賣	一、三七九
種賣	一〇五
種賣	二九六
種賣	四〇五
種賣	二五五
種賣	一五〇

シテ極メテ實用ニ適シ其價モ亦廉ナ
 リ故ニ本年二月同國陸亭瑞、仇金寶ノ
 二人ヲ招僱シ本寮委員ヲシテ其事ヲ
 監理セシメ數次試驗ヲナシ本年三月
 ヨリ六月ニ至リ果シテ孵卵ノ成功ヲ奏シ其生育天然母鶏ノ孵化セシ
 モノト絶エテ異ナルヲナシ其法ノ如キハ編述シテ之ヲ人工孵卵法ト
 以テ各地ニ刊布セントス今ヤ其試驗表ヲ製スルコト此ノ如シ

養蠶ノ件

明治七年三月始テ内藤新宿支廳農務課中ニ養蠶掛ヲ置キ廳内固有ノ
 桑樹ヲ培養シ以テ本邦及ヒ歐洲其他ノ蠶種ヲ試驗セリ而シテ是年五月
 養蠶試驗着手ノ順序ヲ立テ預メ桑園栽培ノ目途ヲ定メ各地方現在桑
 樹ノ品種及ヒ栽培法等ヲ知ラシメ福島、宮城、山梨、長野、熊谷、筑
 摩、滋賀、豐岡、新潟ノ十縣ニ令シ蠶業熟達ノ者ヨリ經驗ノ諸説ヲ上申セ
 シメタリ

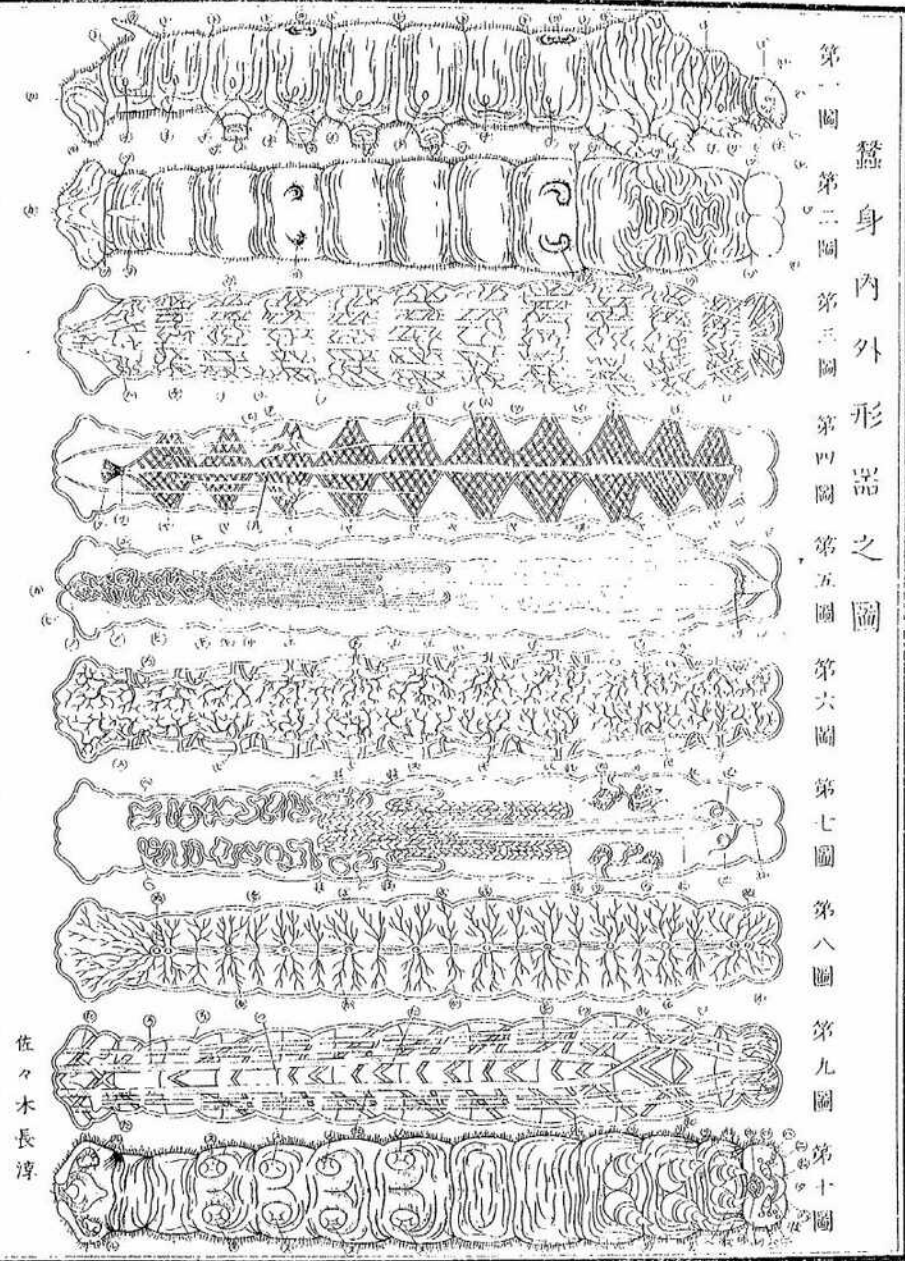
二百七十一

八年一月支廳内荒蕪ノ地壹萬貳千餘坪ヲ開墾シテ蠶事學校建設ノ地
 ナトシ及ヒ桑園ノ位置ヲ區畫シ十縣下ヨリ桑苗壹萬零貳百九拾三株
 ナ新園ニ移植シ更ニ其農夫各壹名ヲ召募シ各地ノ慣法ニ據リテ之ヲ
 培養セシム又桑樹接木ノ方法ヲ試驗シンタメ試植園ヲ設ケテ盛採、傘
 採、撞木採、稍採ノ四法ヲ施セリ
 同年ノ養蠶試驗ハ假蠶室ヲ設ケテ本邦蠶業ニ有名ナル福島、長野、熊谷
 ノ三縣ヨリ養蠶熟達ノ男女各兩名ヲ召シテ各地ノ慣法ニヨリテ之ヲ
 養ハシメ其原理ヲ研究シテ米國費拉特費府博覽會ニ出品スルトコロ
 ノ製絲並卵紙ヲ製造セリ
 同年四月假蠶室近傍ニ方九尺ノ簀園ヲ設ケ櫛葉ヲ以テ山蠶二百頭ヲ
 養ヒ之ヲ試驗スルニ三號マテ蠶病見ル、トナシト雖モ四號後ニ至テ
 腐敗病ヲ發シ斃ル、モノ太ク多ク成繭ニ至ルノ蠶僅々四十頭ニ過キ
 ス仍テ其十頭ヲ製絲ノ試ニ三十頭ヲシテ化蛾セシメ以テ種卵ヲ得ン
 ト欲スルニ只壹個化蛾スルノミニテ餘ハ皆繭中ニ枯死セリ

五月武州加美郡ヨリ栗虫一百頭ヲ得テ直ニ山蠶室ニ併セテ之ヲ試養
 スルニ其半ハ病ヲ發シ斃死シ其生ルモノハ凡テ三十五六日ヲ經テ
 漸々老熟セリ乃チ其老熟セルモノヲ以テ天狗巢ヲ試製スルニ稍々強
 カアリ又其繭ヲ成シタルモノハ之ヲ製絲ニ試ミタリ
 同月又信上奥三州ノ諸縣下ヨリ召募セシ養蠶熟達ノ者ヲシテ各其慣
 法ニ據リテ溫熱清涼ノ二畜ヲ試驗セシメテ之ヲ比較點檢スルニ其溫
 度ノ差太ク大ナリト雖モ是レ從來ノ習慣ナレハ各欠クヘカラサル方
 法ニシテ一朝其得失ヲ辨明スルヲ得ス仍テ八年ハ只溫熱畜ノ方法ヲ
 調査シテ前ニ色分表ヲ創造ス
 七月上旬ヨリ夏蠶試驗ニ着手シ蠶ニ縣下ヨリ召募セル栽培農夫ノ中
 養蠶ニ熟達スル者二名ヲ撰擢シテ各其原紙十分ノ一ヲ與ヘ之ヲ飼養
 セシムルニ發生ヨリ上簇マテノ景況何レモ同一ニシテ優劣ナク成繭
 ノ厚薄中等ノ上ニ出テタリ
 蠶病ノ原因ヲ研究セシメ蠶數頭ヲ解剖セリ今其圖解ヲ左ニ掲ク

第七課 養蠶掛

蠶身内外形器之圖



佐々木長淳

掛 蠱 養 課 七 第

(一) 首頭	(二) 右側ノ喉嚨	(三) 右側六箇ノ連列セル眼	(四) 大索手	(五) 中索手	(六) 吐瀉ノ症	(七) 全身十二箇ノ輪節	(八) 右側九箇ノ氣門	(九) 右側三箇ノ胸足	(十) 右側四箇ノ腹足	(十一) 右側ノ股足	(十二) 尾角	(十三) 連列爪	(十四) 肛門	(十五) 半月狀ノ斑點	(十六) 第二圖露身ノ背面	(十七) 甲額ノ鱗殼	(十八) 右側ノ鱗殼	(十九) 左側ノ鱗殼	(二十) 半月狀ノ斑點	(二十一) 尾角	(二十二) 胸部	(二十三) 腹部	(二十四) 肛門	(二十五) 第三圖丹皮ノ内部ニ在テ運動ノ司ル器械	(二十六) 頸筋	(二十七) 肋筋	(二十八) 筋ノ兩端末外皮ニ接合セル部	(二十九) 諸筋ノ真傍ニ蔓延スル氣管	(三十) 外皮ヲ切斷セし部	(三十一) 第四圖血液循環ノ器械及ヒ陰具
(一) 血液管	(二) 全身中ニ精散スヘキ血液ヲ輸出スル前孔	(三) 全身中ヨリ還取スヘキ血液ヲ輸入スル後孔	(四) 後孔ノ外皮ニ密接スル筋	(五) 三角狀ニ集合シテ脈轉ヲ司ル十箇ノ筋	(六) 三角狀筋ノ根部ノ血液筒ニ接続セル部	(七) 三角狀筋ノ基部ノ血液筒ニ接続セル部	(八) 三角狀筋ノ基部ノ血液筒ニ接続セル部	(九) 三角狀筋ノ基部ノ血液筒ニ接続セル部	(十) 三角狀筋ノ基部ノ血液筒ニ接続セル部	(十一) 三角狀筋ノ基部ノ血液筒ニ接続セル部	(十二) 三角狀筋ノ基部ノ血液筒ニ接続セル部	(十三) 三角狀筋ノ基部ノ血液筒ニ接続セル部	(十四) 三角狀筋ノ基部ノ血液筒ニ接続セル部	(十五) 三角狀筋ノ基部ノ血液筒ニ接続セル部	(十六) 三角狀筋ノ基部ノ血液筒ニ接続セル部	(十七) 三角狀筋ノ基部ノ血液筒ニ接続セル部	(十八) 三角狀筋ノ基部ノ血液筒ニ接続セル部	(十九) 三角狀筋ノ基部ノ血液筒ニ接続セル部	(二十) 三角狀筋ノ基部ノ血液筒ニ接続セル部	(二十一) 三角狀筋ノ基部ノ血液筒ニ接続セル部	(二十二) 三角狀筋ノ基部ノ血液筒ニ接続セル部	(二十三) 三角狀筋ノ基部ノ血液筒ニ接続セル部	(二十四) 三角狀筋ノ基部ノ血液筒ニ接続セル部	(二十五) 三角狀筋ノ基部ノ血液筒ニ接続セル部	(二十六) 三角狀筋ノ基部ノ血液筒ニ接続セル部	(二十七) 三角狀筋ノ基部ノ血液筒ニ接続セル部	(二十八) 三角狀筋ノ基部ノ血液筒ニ接続セル部	(二十九) 三角狀筋ノ基部ノ血液筒ニ接続セル部	(三十) 三角狀筋ノ基部ノ血液筒ニ接続セル部	(三十一) 三角狀筋ノ基部ノ血液筒ニ接続セル部
(一) 呼吸器	(二) 消化器	(三) 排泄器	(四) 生殖器	(五) 運動器	(六) 感覺器	(七) 調節器	(八) 分泌器	(九) 吸收器	(十) 排泄器	(十一) 生殖器	(十二) 運動器	(十三) 感覺器	(十四) 調節器	(十五) 分泌器	(十六) 吸收器	(十七) 排泄器	(十八) 生殖器	(十九) 運動器	(二十) 感覺器	(二十一) 調節器	(二十二) 分泌器	(二十三) 吸收器	(二十四) 排泄器	(二十五) 生殖器	(二十六) 運動器	(二十七) 感覺器	(二十八) 調節器	(二十九) 分泌器	(三十) 吸收器	(三十一) 排泄器
(一) 呼吸器	(二) 消化器	(三) 排泄器	(四) 生殖器	(五) 運動器	(六) 感覺器	(七) 調節器	(八) 分泌器	(九) 吸收器	(十) 排泄器	(十一) 生殖器	(十二) 運動器	(十三) 感覺器	(十四) 調節器	(十五) 分泌器	(十六) 吸收器	(十七) 排泄器	(十八) 生殖器	(十九) 運動器	(二十) 感覺器	(二十一) 調節器	(二十二) 分泌器	(二十三) 吸收器	(二十四) 排泄器	(二十五) 生殖器	(二十六) 運動器	(二十七) 感覺器	(二十八) 調節器	(二十九) 分泌器	(三十) 吸收器	(三十一) 排泄器
(一) 呼吸器	(二) 消化器	(三) 排泄器	(四) 生殖器	(五) 運動器	(六) 感覺器	(七) 調節器	(八) 分泌器	(九) 吸收器	(十) 排泄器	(十一) 生殖器	(十二) 運動器	(十三) 感覺器	(十四) 調節器	(十五) 分泌器	(十六) 吸收器	(十七) 排泄器	(十八) 生殖器	(十九) 運動器	(二十) 感覺器	(二十一) 調節器	(二十二) 分泌器	(二十三) 吸收器	(二十四) 排泄器	(二十五) 生殖器	(二十六) 運動器	(二十七) 感覺器	(二十八) 調節器	(二十九) 分泌器	(三十) 吸收器	(三十一) 排泄器
(一) 呼吸器	(二) 消化器	(三) 排泄器	(四) 生殖器	(五) 運動器	(六) 感覺器	(七) 調節器	(八) 分泌器	(九) 吸收器	(十) 排泄器	(十一) 生殖器	(十二) 運動器	(十三) 感覺器	(十四) 調節器	(十五) 分泌器	(十六) 吸收器	(十七) 排泄器	(十八) 生殖器	(十九) 運動器	(二十) 感覺器	(二十一) 調節器	(二十二) 分泌器	(二十三) 吸收器	(二十四) 排泄器	(二十五) 生殖器	(二十六) 運動器	(二十七) 感覺器	(二十八) 調節器	(二十九) 分泌器	(三十) 吸收器	(三十一) 排泄器
(一) 呼吸器	(二) 消化器	(三) 排泄器	(四) 生殖器	(五) 運動器	(六) 感覺器	(七) 調節器	(八) 分泌器	(九) 吸收器	(十) 排泄器	(十一) 生殖器	(十二) 運動器	(十三) 感覺器	(十四) 調節器	(十五) 分泌器	(十六) 吸收器	(十七) 排泄器	(十八) 生殖器	(十九) 運動器	(二十) 感覺器	(二十一) 調節器	(二十二) 分泌器	(二十三) 吸收器	(二十四) 排泄器	(二十五) 生殖器	(二十六) 運動器	(二十七) 感覺器	(二十八) 調節器	(二十九) 分泌器	(三十) 吸收器	(三十一) 排泄器
(一) 呼吸器	(二) 消化器	(三) 排泄器	(四) 生殖器	(五) 運動器	(六) 感覺器	(七) 調節器	(八) 分泌器	(九) 吸收器	(十) 排泄器	(十一) 生殖器	(十二) 運動器	(十三) 感覺器	(十四) 調節器	(十五) 分泌器	(十六) 吸收器	(十七) 排泄器	(十八) 生殖器	(十九) 運動器	(二十) 感覺器	(二十一) 調節器	(二十二) 分泌器	(二十三) 吸收器	(二十四) 排泄器	(二十五) 生殖器	(二十六) 運動器	(二十七) 感覺器	(二十八) 調節器	(二十九) 分泌器	(三十) 吸收器	(三十一) 排泄器
(一) 呼吸器	(二) 消化器	(三) 排泄器	(四) 生殖器	(五) 運動器	(六) 感覺器	(七) 調節器	(八) 分泌器	(九) 吸收器	(十) 排泄器	(十一) 生殖器	(十二) 運動器	(十三) 感覺器	(十四) 調節器	(十五) 分泌器	(十六) 吸收器	(十七) 排泄器	(十八) 生殖器	(十九) 運動器	(二十) 感覺器	(二十一) 調節器	(二十二) 分泌器	(二十三) 吸收器	(二十四) 排泄器	(二十五) 生殖器	(二十六) 運動器	(二十七) 感覺器	(二十八) 調節器	(二十九) 分泌器	(三十) 吸收器	(三十一) 排泄器
(一) 呼吸器	(二) 消化器	(三) 排泄器	(四) 生殖器	(五) 運動器	(六) 感覺器	(七) 調節器	(八) 分泌器	(九) 吸收器	(十) 排泄器	(十一) 生殖器	(十二) 運動器	(十三) 感覺器	(十四) 調節器	(十五) 分泌器	(十六) 吸收器	(十七) 排泄器	(十八) 生殖器	(十九) 運動器	(二十) 感覺器	(二十一) 調節器	(二十二) 分泌器	(二十三) 吸收器	(二十四) 排泄器	(二十五) 生殖器	(二十六) 運動器	(二十七) 感覺器	(二十八) 調節器	(二十九) 分泌器	(三十) 吸收器	(三十一) 排泄器
(一) 呼吸器	(二) 消化器	(三) 排泄器	(四) 生殖器	(五) 運動器	(六) 感覺器	(七) 調節器	(八) 分泌器	(九) 吸收器	(十) 排泄器	(十一) 生殖器	(十二) 運動器	(十三) 感覺器	(十四) 調節器	(十五) 分泌器	(十六) 吸收器	(十七) 排泄器	(十八) 生殖器	(十九) 運動器	(二十) 感覺器	(二十一) 調節器	(二十二) 分泌器	(二十三) 吸收器	(二十四) 排泄器	(二十五) 生殖器	(二十六) 運動器	(二十七) 感覺器	(二十八) 調節器	(二十九) 分泌器	(三十) 吸收器	(三十一) 排泄器
(一) 呼吸器	(二) 消化器	(三) 排泄器	(四) 生殖器	(五) 運動器	(六) 感覺器	(七) 調節器	(八) 分泌器	(九) 吸收器	(十) 排泄器	(十一) 生殖器	(十二) 運動器	(十三) 感覺器	(十四) 調節器	(十五) 分泌器	(十六) 吸收器	(十七) 排泄器	(十八) 生殖器	(十九) 運動器	(二十) 感覺器	(二十一) 調節器	(二十二) 分泌器	(二十三) 吸收器								

同月更ニ農夫ノ中一名ヲ撰擢シテ筑摩縣下ヨリ輸送スル所ノ夏蠶種
 原紙半枚ヲ試験セシムルニ蠶卵孳化ヨリ其簇ニ登ルマテハ飼養中常
 ニ異ナルヲナキニ其繭ヲ成ス半ニシテ繭ノ中央ニ一穴ヲ穿テ殻外ニ
 突出スルモノ七分ノ一ナリ然レ病蠶少クシテ成繭其他ノ景況ニ至テ
 ハ夏蠶ト優劣アルヲナシ
 八月信州安曇郡稻核村風穴ヲ點檢スルニ其穴中ニ蠶種ヲ貯藏シテ適
 宜ノ時ヲ俟テ之ヲ出シ發生セシムルモノニシテ近來之ヲ飼養スル者
 亦堪カラス故ニ此貯
 種ノ試験ヲナシ以テ
 其良否得失ヲ研究セ
 ソカ爲メ空氣ノ流通
 ヲ要スルモノト否ヲ
 サルモノト二様ノ籠ヲ製シテ各春夏二種ヲ收入シ東京ニ致シ以テ之
 ヲ試験セリ今其表ヲ製シテ其得失ヲ明了ニス

春夏ノ兩蠶種二寸四方ノ卵粒ヲ大氣流通セル箱ト密塞セル箱ト		收メ遠地ニ運搬シテ其孳化ノ多少ヲ量ル表	
蠶種	大氣流通紙二寸四方	生	活
春	流通同	八百六十四粒	千八百三十八粒
	密塞同	八百三十六粒	千八百六十六粒
夏	流通同	千九百八十八粒	七百十四粒
	密塞同	千九百粒	八百二粒

去七年七月裁可ヲ經テ文部省開成學校雇獨逸人ゲーグレイグエン氏
ヲシテ養蠶試驗咨問ノタメ時々養蠶掛ニ出頭セシメシトコロ本年十
月該省條約滿期ニ就キ更ニ勸業寮諸器械ノ建築及ヒ蠶學質問人ト
テ該省既濟ノ條約ヲ繼キ直ニ本省ノ雇ヲラシム
十二月米國費拉特費府博覽會へ出品スルトコロ蠶事關係ノ器械離
形及圖解等ヲ整頓シテ之ヲ該局ニ交付ス其品目ハ該局ノ出品目錄ニ
詳カナリ
伊佛兩國公使ノ需ニ應シ本邦養蠶有名ノ地ニ於テ製造セシ上等ノ蠶
種數拾枚ヲ蠶種會議所頭取ヨリ購求シ顯微鏡ヲ以テ之ヲ點檢シ以テ
其病毒セル病ノ有無ヲ調査シ有害ノ卵紙ヲ除ヒテ其純良ノ品ヲ兩
公使ニ贈ル
京都府ニ於テ博覽會開場ニ就キ從來經驗シタル色分表並ニ圖類及ヒ
桑園雛形等ヲ調整シテ該場へ陳列セリ其品目即チ左ノ如シ
第一 養蠶溫熱育分色表類 一面

第二 三種ノ培養桑林ノ雛形 一箇
第三 養蠶室ノ圖類 一面
第四 蠶身諸形器ノ圖及圖解類 二面
十二月伊國ミラン府ニ於テ第五回萬國養蠶公會ノ際陳述スヘキ條件
調査ス其品目即チ左ノ如シ

- 第一條桑樹栽培法及其種類ノ區分本草學ノ名稱
- 第二條蠶一般ノ養法及ヒ日本ニテ施行セシ經驗ノ報告
- 第三條養蠶溫熱育ノ表
- 第四條日本ニテ一種ノ蠶蛆病
- 第五條東京養蠶所ニ於テ「コルヒュスキウル」病ノ試驗
- 第六條富岡及東京工部省製絲場工業ノ陳述
- 第七條蠶卵紙ノ製造
- 第八條蛾ノ雌雄 附吐生ノ法
- 第九條種卵ノ畜藏 附其孚化ヲ遲速スル法

第十條信州風室ノ件

第十一條輸出種ヲ包裝スル法

第十二條輸出ニ用ル筐材ノ品質

第十三條養蠶並ニ蠶卵製造ニ用ル器具ノ説

第十四條野蠶ノ問題

蠶嶌ハ蠶業上最モ災害アルモノナレハ其防禦法ヲ經驗セシメ八年春蠶ノ出蛆ヲ貯藏シテ銅網ヲ以テ蛆蠅試驗室ヲ設ケテ化蠅セシメ其生育及始終ヲ點檢セリ

九年ハ本邦蠶ノ各種及ヒ歐洲蠶復種支那三化蠶等ニ至ルマテ悉ク試驗セシメ熊谷長野福島ノ三縣下ヨリ養蠶熟達ノ男女各二名ヲ召募シ各地ノ慣法ニ據テ之ヲ施行セシメ更ニ三縣下ノ養法及乾濕溫冷等各養育方法ニ從ヒ之ヲ區別シテ七室トナシ掛リ各員擔當ノ養室ニ於テ親シク蠶者ヲ使役シテ晴雨寒暖ノ度數ヨリ以テ飼桑兒ノ景狀ニ至ルマテ渾テ帳簿ニ詳録シ且色分表ヲ製シテ試驗ノ原理ヲシテ明瞭ニ

セリ今其表ト毎室ノ養法トヲ示スヲ左ノ如シ

第一號清冷室ニ於テ試養スル處ノ蠶種ハ上州製金生種、楢圓毒卵種、清國三化生復種、清國蠶種、鹽茶漬卵、ノ四種ナリ

第二號清溫室ニ於テ飼養スル處ハ信州人製卵、清白種、岩手縣下試卵種、楢圓毒卵種、清國種、石灰漬卵、奥州人製卵、白今昔卵種、清國三化生復種、清國種、鹽水浸卵、ノ七種ナリ

第三號盛熱室ニ於テハ奥州人製卵、白今昔蠶種、岩手縣下試卵、青白種、楢圓毒卵種、埃國復種、三年目、同茶繭種、同白繭種、黑龍種卵、同黃龍種卵、橙皮繭種卵、金蠶種卵、綿蠶種卵、清國種、鹽茶漬卵、清國種、石灰漬卵、ノ十一種ナリ

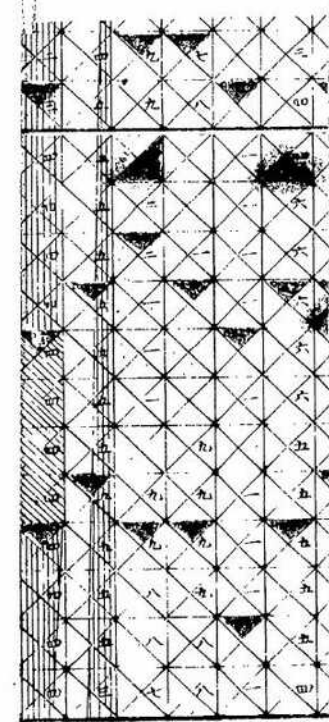
第四號濕煖室ハ上州製金生種、奥州製白今昔種、ノ二種ナリ

第五號病蠶室ハ各室ノ病蠶ヲ移シ之ヲ養育解剖シテ病質ノ原因ヲ請究シ其他種々ノ豫防法ヲ經驗セリ

第六號乾寒室ハ奥州製白今昔種、清國種、復製三化生卵、ノ二種ナリ

第七號溫寒室ハ奥州製白今昔種、清國種復製三化卵ノ二種ナリ

二百八十



四度	四度	四度	四度	四度	四度
〇六五〇、	一四〇〇、	一九五〇、	一九〇〇、	四〇〇〇、	四六〇〇、

百四拾七粒
失
百九拾五頭

[illegible]

從來本邦養蠶家ニ於テ專ラ嫌忌スル處ノ雨桑、鹽烟草、煤石炭油及ヒ灰
汁等ヲ食桑ニ混合シテ之ヲ強壯ナル蠶ニ與ヘテ其景狀ヲ検査スルニ
煙草石炭油ノ如キハ最モ害毒アリテ不日變色羸瘦シテ暫時間ニ斃死
ス而シテ鹽灰汁、煤、雨桑ノ如キモ又多少ノ害毒ヲ爲スト雖ヒ漸々桑葉ノ
乾燥スルニ隨テ之ヲ食ミ日ヲ逐テ成繭ス下等ナリ故ニ蠶兒ヲ養育
スルモノ該毒ノ食料ニ紛混セサル様注意スルヲ緊要ナリ但此試驗ノ
如キハ着手ノ創メニシテ未タ確定スルトコロニ非レハ猶ホ明年養蠶
ノ季ニ至リ精細ノ經驗ヲ遂ゲンコトヲ欲ス

九年五月三日信州筑摩郡ヨリ山蠶種卵來着シ不日ニシテ發生ヲ催セ
リ仍テ簀圍ノ室ニ於テ之ヲ試育シ室中清潔大氣流通ナラシメテ養食ヲ
與フルニ新芽ノ櫟枝ヲ以テシテ連日食桑ヲ交換セシカ初蛻二蛻ハ頗
ル強壯ニシテ成長シ三蛻後ニ至テ病ヲ發シ全身細黒點ヲ生シ逐次膨
脹シテ腐敗シ或ハ下痢症ニ罹リテ斃死ス其他病質種々ニシテ漸々減
少シ發生ヨリ六十餘日ヲ經テ稍熱蠶ノ頃ニ臨ンテ悉皆病死シ成繭一

モ得ル能ハサルナリ
五月十三日上州綠野郡ヨリ幼稚ノ栗虫百餘頭ヲ得テ之ヲ試養シ新芽
ノ栗枝ヲ水桶中ニ插ミ之ニ移シテ其生育ノ景狀ヲ檢査スルニ不日ニ
シテ病ニ罹リ腐敗スルモノ多シ蓋シ此虫ノ性質タルヤ蠢々トシテ隔
遠ノ地ニ運動スルヲ以テ往々地上ヲ匍匐シテ炎熱ニ感シテ斃死スル
モノ甚タ多シ故ニ四齡後ニ至リテ生熟スルモノ殆ト三分ノ一ナリ而
シテ其強壯ナルモノハ來着ヨリ凡ソ五十餘日ヲ經テ六月下旬成熟ス
仍テ全熟ノ虫ヲ採リ或ハ之ヲ剖割シテ天狗巢ヲ製シ或ハ繭ヲ造ラシ
メテ種卵ヲ取リ以テ之ヲ貯藏セリ
内國博物館並ニ支廳農業博物館ニ陳列スル爲メ繭事關係ノ物品ヲ整
列スルヲ即左ノ如シ

番號	物名
第一號	絲箱壹箇
第二號	屑絲箱壹箇

第三號	屑絲箱壹箇
第四號	蠶棚壹箇
第五號	組壹箇
第六號	緣木四本
第七號	木鉢貳箇
第八號	桑貯箱壹二重
第九號	除巢器壹箇
第十號	剝葉庖丁小貳箇
第十一號	放葉同壹箇
第十二號	貯種箱壹箇
第十三號	蠶籠小大四枚
第十四號	桑楊籠三組
第十五號	桑籠同壹組
第十六號	蠶臺壹脚

第十七號	羽	簪	貳	本
第十八號	飾		小大 三	飾
第十九號	桑	摘	壹	飾
第二十號	箕		小大 貳	飾
第二十一號	桑	伐	貳	飾
第二十二號	熊	手	壹	飾
第二十三號	鈹		壹	飾
第二十四號	蠶	網	四	枚
第二十五號	絲	筵	貳	枚
第二十六號	麤	座	貳	飾
第二十七號	麤	筵	貳	枚

本年伊國ミジノ府ニ於テ第五回萬國養蠶公會ニ付六等出仕佐々木長淳外隨行一員派出ノ命ヲ奉シテ六月廿四日東京ヲ出發セリ

蠶種紙ノ件

蠶種紙ハ嘉永癸丑貿易通商ノ道一クヒ開ケシ以來製造ノ額歲々逐フテ増加シ人民競フテ其多製ヲ貪リ隨テ粗製濫造ノ弊ヲ來シ其甚シキニ至テハ贗品ヲ騙賣スル者アリ是ヲ以テ内國所産ノ生絲モ自カラ其品格ヲ墜シ木邦名産ノ令譽ヲ害フニ至レリ此際獨リ内地ノ需用ニ充ントスル製種家及ヒ製絲家ハ之レヲ痛慨憂苦スルト雖モ畢竟開港場貿易ノ形狀ト人民趨利ノ情態トノ然ラシムルトコロニシテ勢之ヲ挽回スルニ術ナク舊年ヲ彌ル維新ノ後民部省ニ於テ始テ蠶種紙賣買ノ規則ヲ設ケ勸農局ヲシテ之ヲ管掌セシメタルヨリ保護ノ術稍備ハルト雖モ固ヨリ新設ノ方法ニシテ加フルニ藩治ノ時ニ際スルヲ以テ規則普ク行ハレサリキ故ニ四年ニ至リテハ蠶種貿易ノ形狀實ニ言フヘカシサルノ失敗ヲ取リ是カ爲メニ廢業倒産ニ至ルモノ往々有之是ニ於テカ我政府再ヒ保護ノ方法ヲ釐正シ五年五月大藏省中勸農寮ヲシテ之ヲ管掌セシメ十月該寮ヲ廢セラレ租稅寮中勸業課ニ屬セシム

是ヲ以テ五六兩年ノ間ハ監督ノ方ヲ立テ内外供給ノ多寡ヲ概算シ印紙ヲ發行シ或ハ原紙ヲ賣與シ若シクハ該年ノ產額ニ應シテ輸出ノ額數ヲ増減スル等ニ至ルマテ各其制限ヲ立ルヲ以テ此兩年ハ頗ル輸出ノ額ヲ増加シ貿易上ノ利益少カラサリキ

七年一月始テ內務省中ニ勸業寮ヲ置カレテ本務ヲ該寮ニ屬セシム然ルニ此年六月蠶種内外川印紙ノ區分ヲ廢セラレタルヨリ人民競フテ輸出ヲ要シ其數ノ多キヲ以テ價格ノ低下スルノミナラス終ニ巨萬ノ蠶種ヲシテ空シク灰燼ニ付セシムルニ至レリ

昨八年ハ製種ヲ請求スル者許多ニシテ到底官ノ保護ヲ受タルニ非サレハ復タ前日ノ覆轍ヲ踐ムノ顧慮アリト雖ヒ既ニ内外川ノ區分ヲ廢サレタルヨリ保護維持ノ良策ナキヲ以テ更ニ従前ノ規則ヲ廢シ製種人等ヲシテ各地方ノ便宜ニ依テ組合ヲ立テ頭取及ヒ檢査人等ノ役員ヲ撰擢セシメ以テ専ラ營業上ノ便否得失等ヲ協議セシム又一般ノ商議ヲ盡サントメ各組合頭取及ヒ蠶種商人等集會ノ方法ヲ設ケリ此衆

議ニ因テ製種ノ額ヲ減少シテ復タ内外ノ區分ヲ立ツト雖ヒ該年ハ各國ニ於テ前年蠶種ノ販賣多カラサルヨリ外商ノ來港モ亦稀少ニシテ販賣輸出スルトコロ多カラサルヲ以テ輸出スヘキ蠶種ノ若干ヲ賣リ剩スニ至リ價格モ隨テ低下セリ之ヲ要スルニ當初内國蠶種商人ハ失當ノ價格ヲ唱ヘ抵抗力ヲ起セシヨリ終ニ彼カ術中ニ陥リ此失敗ヲ招クニアリテ保護維持ノ方法不良ナルヨリ來リシモノニアラサルナリ但本年ノ原紙賣與ノ額ハ前年ノ産ニ増加スルモ實際ノ製種ニ至リテハ幾分カチ減スヘシ然リト雖ヒ未タ一般ノ産額完全セス猶貿易ノ期ニ至ラサレハ其實額ト景況トハ豫メ知ルヲ得ス蓋シ本年ハ伊佛兩國ノ蠶業不利ノ聞エアルヲ以テ將ニ製絲ノ價格騰貴セントスルノ勢アリ是ニ由テ之ヲ推測スルモハ蠶種ノ價モ亦挽回スルニ至ラン

蠶卵紙數量通價	種別		蠶卵紙數量通價
	年度	種別	
蠶卵紙數量通價	本年	前年	蠶卵紙數量通價

種別	年度	本 周 年		前 周 年	
		數量	通 價	數量	通 價
罐卵紙		數量	通 價	數量	通 價

カ抑本邦ノ蠶種各國ニ冠タルハ固ヨリ論ヲ俟タス將來人智開クルニ隨ヒ彼我同等ノ氣力ヲ得テ外商ノ來航ヲ待タス我ヨリ航海販賣スルニ至テハ本邦名産ノ實益期シテ待ツヘシ今本周年ノ産額ニ就キ比較増減表ヲ製スルヲ斯ノ如シ

内藤新宿支廳製糸試驗ノ件

支廳ノ製絲試驗ハ元漢國博覽會事務局ニ屬シ明治八年七月本寮ノ管掌ト爲レリ府下内山下町工業試驗場ニ於テ伊國ノ法ニ據リ器械ヲ以テ車ヲ旋轉シ一人數工ヲ兼テ之ヲ製造シ以テ

内國川	海外輸出	販賣剩餘	燒却	夏蠶種内國川	合計	前年増	比較減
八八、四四二	七、六二二	一、七五八六		一、六七、五五二	八、三九、四四	二、八六、九六八	二、六六、四三三
四、五五五	七、三二五	四、八四一	一、六八、四五六	一、五五五	一、五五五		

種類	數量
生絲製造	一、六二
製絲高及工人表	一九〇六三

やめおるやうな

絲トシ以テ綸トシ或ハ其強弱ヲ驗シ或ハ其細大ヲ測リ或ハ其撚數ノ多少ヲ審ル本年五月之ヲ今ノ地ニ移シ廳内固有ノ水車機關ヲ假用シ製絲場撚絲場貯繭場各壹字ヲ建設シ蒸氣錘ヲ置キ諸器械ヲ備フ即是將來各府縣ニ於テ製絲撚絲場等建設ノ際教師トナルヘキ者ヲ今ヨリ教育セントスルノ目的ヲ以テ工男貳拾名工女七拾五名ヲ定員トシテ漸々之ヲ召募セントス然ルニ若手日猶淺クシテ掲載スヘキ條件少ナキヲ以テ姑ク本周年間内山下町工業試驗場ニ於テ製スルトコロノ製絲高ヲ右ニ掲ケリ

職工	見習生徒	各縣系試驗場	撚絲製造	生絲製造	手繰絲
男	男	男	男	男	男
女	女	女	女	女	女
八	四	三	一	一、四二	一、二七六三

製茶ノ件

明治七年四月始テ製茶掛ヲ置キ尋テ紅茶製造諭告書ヲ造リ之ヲ各府縣ニ頒布ス又一ツノ製茶場ヲ賃借シ紅茶ヲ試製シ且從前ノ各種茶及ヒ支那茶ヲ文部省司藥場ニ送リテ分析ヲ乞ハ其回報ヲ得テ之ヲ各地

方ニ報告シ尋テ各種茶及ヒ米國ニ用フル所ノ無色茶ヲ製シ之ヲ同國
紐育ニ輸送シテ該地嗜好ノ適否ト價位ノ品評ヲ乞ヒ其報告ヲ得テ又
之ヲ各地方ニ報告シ紅茶ノ一種ハ之ヲ換國博覽場ヘモ陳列セリ又内
藤新宿出張所内凡壹万坪餘ノ地ヲ開墾シ場圃ニ散在セル茶樹ヲ一所
ニ集栽シ或ハ種子ヲ播シ或ハ各種類ヲ集メ翌年六月ニ至テ其業粗整
理ス因テ區界ヲ分チ各種ノ肥料ヲ試用シ以テ其種類ノ良否培養ノ得
失ヲ證セントス

八年三月九州ノ山生茶ヲ以テ支那茶ニ擬製シ一種ノ新益ヲ興スヘキ
ノ議ヲ起シ支那製茶人兩名ヲ備ヒ且官員三名ヲ派出シテ之ヲ督セシ
メ大分白川ノ兩縣下ニ於テ之ヲ試製スルヲ凡廿五品量目三千五百斤
餘ヲ得タリ乃チ之ヲ見本トナシ歐米各國ニ遞送シテ汎ク品評ヲ乞ヒ
且ツ其嗜好ニ適スル所ノモノハ賣買定約ヲ結ハントナレリ又蒙洲
メルボルン府及米國ヒラデルヒヤ府ノ博覽場ヘモ各種ノ製茶ヲ陳列
セシメ委員一名ヲ支那ニ派出シ各種試製ノ茶ヲ以テ批評ヲ乞ヒ該地

培植ノ景況等ヲ觀察セシメ翌年一月歸朝シ其景況及試驗說ヲ具狀セ
リ九年三月再ヒ試製ノ爲メ官員六名及ヒ支那人兩名雇繼テ以テ熊本
縣下人吉ニ派出シ且製茶傳習ノ爲メ山生茶繁殖ノ地方ヨリ官費自費
ノ兩生徒ヲ募リ其規則書ヲ編成シテ各種製茶凡四千六百斤ヲ製出シ
本年ニ於テハ之ヲ勸商局ヘ付托シテ海外ヘ遞送セリ又本法字治製ノ
再ヒ熬炙スルモノ米國之ヲ無色茶ト稱シ藥品ヲ用テ色ヲ若ケサルノ
專ラ之ヲ好尚スルガ故ニ是月假製茶場ヲ東京府下木挽町ニ設ケ一年
ノ製額凡三十萬斤ノ見込ヲ以テ毎月若干斤ヲ製出シ之ヲ勸商局ヘ送
付シテ紐育ヘ輸出シ又以テ販賣ノ路ヲ開カントス如シ其嗜好ニ適ス
ルヤ直ニ之ヲ人民ニ移シ一般製茶ノ方向ヲ定メシメ漸次歐洲ヘモ輸
送シ我國產ノ聲譽ヲ掲ケントス又印度地方輓近茶樹ノ培植及其製造
ノ法ニ至テ頗フル盛大ヲ極ムルノ聲聞アルガ故ニ其實況ヲ探リ其真
法ヲ得ンカ爲メ同年四月官員三名ヲ派出シテ現今彼地ニ滞在セリ
同年五月當掛ニ於テ創意スル所ノ器械鐵焙爐ナルモノヲ用テ製茶試

驗サナセシニ從前ノ紙焙爐ニ比スレハ其製スル所一倍ノ上ニ出テタ
リ因テ製スル所ノ本色茶ヲ紐育ニ輸送シ廣ク茶商ノ品評ヲ請ヒシニ
頗ル佳稱ヲ得タリ故ニ鐵焙爐製ノ色味ヲ害セサルヲ確認シ將サニ之
ヲ勸奨セントス又輸出製茶ニ欠ヘカラサル鉛板或ハアルヘジ或ハ聯
蔓ノ如キ從前用フル所ノモノ皆輸入ヲ仰クト雖ヒ自今本邦ノ產物ヲ
以テ之ニ充テントシ現ニ其試造ニ着手セリ

支那方煎茶試製増減比較表

種類	稱數	單位	本年		前年	
			數量	通價	數量	通價
生葉茶	貫		三、一三八五	四九八五四一	四、二〇〇	一、〇九〇八一七
製茶斤			四、五九六七五		五、六二二四	
合計			七、七三五二五		九、八二二四	
前年増						
比較減			二、〇八七一五		五九二二七六	

日本製茶品價一覽表

茶名並番號	檢査人	葉並	茶色	茶味	品位	價位	合衆國ニ
第一號	イ、イ、ロー	兄弟	精美	不可	乏	特選最上	六拾三錢半
折物	ブロックス	兄弟	精美	不可	特選最上	八拾錢ヨリ	九拾錢
第二號	イ、イ、ロー	兄弟	精美	不可	乏	特選最上	六拾三錢半
玉露	ブロックス	兄弟	精美	不可	特選最上	八拾錢ヨリ	九拾錢
第三號	イ、イ、ロー	兄弟	精美	不可	乏	特選最上	六拾三錢半
海茶	ブロックス	兄弟	精美	不可	特選最上	八拾錢ヨリ	九拾錢
第四號	イ、イ、ロー	兄弟	精美	不可	乏	特選最上	六拾三錢半

濃茶	第五號	飛出茶	第六號	晚茶	第七號	輸出茶	第八號	第九號
カアレー 兄弟	イ、イ、ロ 兄弟	イ、イ、ロ 兄弟	イ、イ、ロ 兄弟	イ、イ、ロ 兄弟	イ、イ、ロ 兄弟	イ、イ、ロ 兄弟	イ、イ、ロ 兄弟	イ、イ、ロ 兄弟
不可	不可	不可	可	不可	精美	美	不可	不可
極富饒	淡薄	乏	乏	乏	不可	不可	不可	不可
三拾七錢ヨリ 四拾錢					最上	上		拾錢
同	同	同	同	同	五拾三錢半	六拾九錢 六拾三錢ヨリ 六拾五錢	否	

二百九十四

支那茶	第十號	支那茶	第十一號	第十二號	日印茶	輸出茶
イ、イ、ロ 兄弟	イ、イ、ロ 兄弟	イ、イ、ロ 兄弟	イ、イ、ロ 兄弟	イ、イ、ロ 兄弟	イ、イ、ロ 兄弟	イ、イ、ロ 兄弟
美	甘美	富饒	上	精美	精美	不可
上	最上	最上	上	上	最上	中
三拾錢 十分ノ三	三拾五錢	六拾二錢半	六拾錢ヨリ 六拾二錢	五拾壹錢 三拾二錢	四拾七錢 十分ノ九	五拾八錢
否	否	否	適	否	適	否

二百九十五

再製 イ印 チ以 テ	綠ハ 緑印 茶印	再製 イ印 チ以 テ	ニ 紅 茶 印	本年試製			
イ、イ、ロー	兄弟	適宜	可	最上	最上	六拾三錢半 ^C	適
ブロックス	精美	可	上	上	六拾錢	適	
ビールト及コンペニー	上	可	上	上	六拾錢	適	
カアーレー	兄弟	可	上	上	六拾五錢	否	
イ、イ、ロー	兄弟	精美	不可				
ブロックス	兄弟	不可					
ビールト及コンペニー	不可						
カアーレー	不可						
コンペニー	美						
イ、イ、ロー	兄弟	上					
ブロックス	兄弟	四拾錢					
ビールト及コンペニー	三拾七錢						
カアーレー	三拾九錢						
コンペニー	上						
	否						

工業試験ノ事ハ元ト正院ノ所管ニシテ、學園博覽會ノ事務
明治八年七月十日當寮ノ所管トナリ、内山下町博物館中ノ一區ヲ分テ
試験場トナシ、以來左ノ各業ニ着手セリ

種 類					試 驗		府 縣 名		本 周 年 各 府 縣 製 品 試 驗 表		
山 石 鹼		其實不良ニシ テ實用ニ難シ		長 野 縣		高 知 縣		愛 知 縣		東 京 府	
白 堊		同		同		同		同		同	
石 灰		同		同		同		同		同	
毛 織 染 物		化 合 不 適 當		東 京 府		東 京 府		東 京 府		東 京 府	
葡 萄 酒		醋酸醸造ニハ 可ナリ		島 根 縣		島 根 縣		島 根 縣		島 根 縣	
コ ー ル タ ー ル		定 量 試 驗		東 京 府		東 京 府		東 京 府		東 京 府	
發 火 木		化 合 不 適 當		敦 賀 縣		敦 賀 縣		敦 賀 縣		敦 賀 縣	

二百九十七

スルニ足ラス然ルニ貿易交通ノ道開ケシヨリ内國石油ノ需用年一年ヨリ多クシテ輸入ノ額モ亦隨テ増加ス是ニ由テ曩キニ各地人民結社シ資本ヲ募リ石油開業ニ及フモノ數社アリト雖モ地質並ニ油脈ヲ測量スルノ法ヲ知ラス又井坑ヲ穿ツノ適度及器械ノ得失分析ノ方法等ヲ審ニセス之カ爲メ巨萬ノ金額ヲ費消スト雖モ其交驗ヲ見ルニ至ラズシテ中止スル者往々有之本寮嘗テ石油開坑ノ要務タルヲ議シ明治八年九月委員ヲシテ信越羽ノ諸州ニ派遣シ地質及舊井坑ヲ點檢セシメ本年二月更ニ地質大學士米人邊司來曼氏ヲ傭ヒ壹萬圓委員二名及地質學生徒九名ヲ付シ之ヲ信越地方ニ派出セシメ現今各地油脈測量中ニ屬セリ此利源一タヒ開クルヤ内ハ全國ノ需用ニ供シ外ハ輸入ヲ抑ヘ以テ輸出ノ額ヲ増加スルニ至ラン然リト雖モ其物タル地底ニ伏シテ之ヲ求ムルヲ殆ント冥搜ニ屬ス是レ尋常物件ト同一視スルヘカラスシテ事業ノ最モ舉リ難キ所以ナリ夫レ巨大ノ事業ヲ興サントス必スヤ開始ニ苦辛シテ後成巧ヲ要ス可シ是レ試驗分析等ノ最モ先務

ニ屬シテ輕々開業ニ及ハサル所以ナリ仍テ其分析表ヲ製スルヲ左ノ如シ

石油分析表

縣名	町名	村名	比重	揮發油	油	輕ハラシ油	重ハラシ油	滓	一日出油
濱	遠	榛原	〇、七六四	二九四	五九四	三三三	六五	一三五	
		菅谷	〇、七八五	四九	五五三	九六	七九三	二二四	
松	江	同	〇、八五	三三	二六八七	九六	二八五二	一	
		白羽	〇、九	三三	二六八七	九六	二八五二	一	
筑	信	安曇	〇、九	三三	二六八七	九六	二八五二	一	
		青具	〇、九三三	四六六	二六四二	四六六	二六四二	三三	
摩	濃	水田	〇、九三三	四六六	二六四二	四六六	二六四二	三三	
		上松	〇、九三三	四六六	二六四二	四六六	二六四二	三三	
		茂管	〇、八二〇	四六二	四九四二	一七〇五	二五八六	二二〇六	八七
		富倉	〇、九三三	二二二	四七八	一八五一	九六	六九	
		眞光寺	〇、九三三	二二二	四七八	一八五一	九六	六九	
		同	〇、九三三	二二二	四七八	一八五一	九六	六九	

岡 鶴		新潟	
後 羽		越	
山 本	目名瀧	同	同
二二度	〇・九	〇・八四〇	〇・八二〇
二二六五	一一九一四	二二〇三	二〇九
一一六五	一一六五	二二五	一八三三
		四六	
由 利	小 國	同	同
二二度	〇・九	〇・九〇五	〇・八四〇
二二六五	一一九一四	二二〇三	二〇九
		二二五	一八三三
		四六	
蒲 原	館	同	同
二二度	二・九三〇	二・八三〇	二・八二〇
九〇三	二〇八四	二〇三	二〇九
三七七一	三七七一	二二五	一八三三
八		四六	
同	觀音寺	同	同
三二五度	〇・八三〇	〇・九二五	〇・八二〇
五二〇	一九二	二〇三	二〇九
二二五	二二五	二二五	一八三三
		四六	
同	藤内名	同	同
二二五度	〇・九二五	〇・八三〇	〇・八二〇
五二〇	一九二	二〇三	二〇九
二二五	二二五	二二五	一八三三
		四六	
同	大荒戸	同	同
四二五度	〇・八三〇	〇・九二五	〇・八二〇
五二〇	一九二	二〇三	二〇九
二二五	二二五	二二五	一八三三
		四六	
同	三 島	同	同
三二五度	〇・八三〇	〇・九二五	〇・八二〇
五二〇	一九二	二〇三	二〇九
二二五	二二五	二二五	一八三三
		四六	
同	田 澤	同	同
三二五度	〇・八三〇	〇・九二五	〇・八二〇
五二〇	一九二	二〇三	二〇九
二二五	二二五	二二五	一八三三
		四六	
同	坂 田	同	同
四二五度	〇・八三〇	〇・九二五	〇・八二〇
五二〇	一九二	二〇三	二〇九
二二五	二二五	二二五	一八三三
		四六	
同	妙法寺	同	同
二二五度	〇・八三〇	〇・九二五	〇・八二〇
五二〇	一九二	二〇三	二〇九
二二五	二二五	二二五	一八三三
		四六	

膏粉ヲ以テ花瓶水注盆碗等ノ型ヲ製造ス此型ニ泥土ヲ注入シ陶器ヲ	製スルハ	其乾燥ノ速	ナルヨリ	一日一夫ノ	製スル所概	子千ヲ以テ	數フルニ至	ル蓋シ石膏	ノ性分タル	ヤ石灰硫酸	ノ質ヲ含ミ	之ヲ熬焙スレハ益乾燥力ヲ發セリ更ニ水ヲ和シ泥トナシ型ヲ造レハ	水氣乍チ蒸發シテ二十分時間ニシテ堅固ナルコト石ノ如シ是故ニ其水
石膏型並坯土顏料燒試驗表	石膏型數	量石燒數	量土燒數	量石燒錦手數	量土燒錦手數	量石燒錦手數	量土燒錦手數	量石燒錦手數	量土燒錦手數	量石燒錦手數	量土燒錦手數	量石燒錦手數	量土燒錦手數
花瓶	二五	二四	一〇	一四	一八	二五	二四	一〇	一四	一八	二五	二四	一〇
植物鉢	二五	二四	一〇	一四	一八	二五	二四	一〇	一四	一八	二五	二四	一〇
水注	二五	二四	一〇	一四	一八	二五	二四	一〇	一四	一八	二五	二四	一〇
乳瓶	二五	二四	一〇	一四	一八	二五	二四	一〇	一四	一八	二五	二四	一〇
沙糖壺	二五	二四	一〇	一四	一八	二五	二四	一〇	一四	一八	二五	二四	一〇
煎茶盤	二五	二四	一〇	一四	一八	二五	二四	一〇	一四	一八	二五	二四	一〇
急須	二五	二四	一〇	一四	一八	二五	二四	一〇	一四	一八	二五	二四	一〇
猪口	二五	二四	一〇	一四	一八	二五	二四	一〇	一四	一八	二五	二四	一〇
臺皿	二五	二四	一〇	一四	一八	二五	二四	一〇	一四	一八	二五	二四	一〇
肉皿	二五	二四	一〇	一四	一八	二五	二四	一〇	一四	一八	二五	二四	一〇
各種鉢	二五	二四	一〇	一四	一八	二五	二四	一〇	一四	一八	二五	二四	一〇
龍鈕	二五	二四	一〇	一四	一八	二五	二四	一〇	一四	一八	二五	二四	一〇
湯呑	二五	二四	一〇	一四	一八	二五	二四	一〇	一四	一八	二五	二四	一〇
合計	二八一	二八八	二二〇	一三八	五七	二八一	二八八	二二〇	一三八	五七	二八一	二八八	二二〇

分チ吸引シテ埴土乾燥ノ最モ速ナル所以ナリ目今各地ノ陶工此發明
アルヲ知ラスシテ徒ニ人力ヲ費シテ事業ノ遲緩ヲナス是レ我邦日
用陶器ノ價ヒ不廉ナル所以ナリ故ニ之ヲ經驗シテ將サニ各地方ニ布
及セシメントス又石版畫ヲ以テ陶器ニ移ス一法アリ最モ新發明ニ屬
ス後來此等ノ件モ亦將サニ傳習ヲ要セントス今該場試製ノ陶器品目
ヲ掲グルヲ斯ノ如シ

染工ハ本寮雇員中村喜一郎稍化學ニ通スルヲ以テ埴國博覽會事務官
ニ隨從シ獨逸「スチエット」カルト「ナル」染物製造所ニ入り絹綿毛ノ染法ヲ
講習シ且所要ノ染料ヲ購求シテ歸朝ノ後之ヲ實地試驗セシカ其工ノ
神速ニシテ色澤ノ佳絶ナル實ニ驚クヘキモノアリ仍テ之ヲ各地ニ傳
ヘ一般染費ノ低下ヲ謀ラントスルニ際シ適八年十二月京都府ノ請求
ニ應ジ喜一郎ヲ同府ニ遣リ現ニ該業ニ着手セリ抑木邦ノ染工京都府
ヲ推テ第一ト爲シ其精妙佳絶ノ他ニ超越セルハ遍ク世人ノ知ル所ナ
リト雖モ其工費廉ナラス殊ニ上等品ニ至テハ最モ高價ニシテ人々購

求シ難キヲ苦ム今同府ノ傳習ヲ要スル蓋シ亦此ニ見ル所アルカ佗日
必ス其成功ヲ期スヘキナリ

塗工ハ護謨或ハ「ラック」ヲ以
テ革又ハ棉布ヲ塗り金銀粉
五彩ヲ用テ各様ノ蔓艸花卉
ヲ描キ卓案椅子ノ敷物トシ
或ハ木製器鉄製器等ニ彩
色潤澤ヲ加ヘ内外博覽會ノ
出品又ハ海外各國ノ贈物ニ
充テントス本周年間塗物試
製ノ數右表ノ如シ

木工ハ卓子戸棚盜具食器等

本周年塗物試製表

ラック	敷	量	護謨	數	量
化粧臺	一	雲雀卓	一		
卓	一	卓	一		
戸棚	一	ラック下	一		
食器臺	一	三角定本	一		
黃楊尺	一	一七	麻葉形	一	
臥床	一	龜甲形	一		
食器棚	一	更紗	一		
椅子	一	紅皮	一		
眼鏡室	一	七〇	黑塗	一	
茶入	一	二同	飾箱	一	
合	一	肉色	塗皮	一	
計	一	三五五		二〇	

本周年木具出來高一覽表

ヲ製造彫鏤シ或ハ異木ヲ以テ嵌填シ將サニ内外博覽會出品ニ充ントス本周年間木具出來高ヲ掲出スルヲ下表ノ如シ

木具	數量	單位	通	價
戸棚	一	位	一〇〇	圓
化粧臺	二	位	八〇	
卓子	三	位	五四六	
食器臺	六	位	六二七七	
椅子	一	位	二二六	
臥林	一	位	六二九	
書臺	一	位	五二四	
合計	一五	位	四三六二七	

三百四

玉工ハ府下平民朝倉松五郎ナルモノ塙國ニ於テ眼鏡製造法及寶石類彫琢法ヲ傳習シ來リ之ヲ實地試驗スルニ創マル其術タルヤ水晶或ハ玻璃ヲ琢磨シ眼鏡及寫眞測量顯微天目等ノ諸鏡ヲ製造ス其器タル鎖ノ子母形アリテ水晶又ハ玻璃ヲ其間ニ挿入シテ之ヲ研磨シ以テ鏡ノ凹凸ヲ爲ス模形ノ數凡六十

本周年眼鏡出來高一覽表

品名	數量	單位	西京出品數
眼鏡	二七	位	三六
同洋銀同	三二	位	
短視眼鏡	一九	位	二四
天目鏡	二四	位	一〇
寶石嵌器	一	位	七〇
合計	一〇三	位	

餘號ニシテ一人一器ヲ以テ一時ニ十雙ノ眼鏡ヲ研磨シ其工ノ速ナルヲ本邦未ダ曾テ有ラサル所ナリ又玉石類ヲ彫琢シ或ハ五色ノ石ヲ以テ花卉ノ模様ヲ石板ニ嵌填シ其巧妙モ亦驚クヘシ
夜景寫眞術ハ塙國人ミハエル、モ、サ氏ヲ教師トナシ東京府下寫眞家長谷川吉次郎ヲ屬シテ其寫眞法並藥法等ヲ傳習セシメ吉次郎遂ニ其道奧ヲ究ムルヲ得タリ因テ明治八年十二月八日寫眞畫發賣ヲ許スミハエルモ一サハ期滿チテ已ニ歸國セリ

農學ノ件

本邦ノ農事ハ水土氣候ノ美天產品類ノ饒ト古來經驗ノ久シキトニヨリ其業頗ル觀ルヘキモノアリ然レ從來未ダ農學ヲ講セサルヲ以テ明治七年本寮農務課中府下内藤ニ於テ始メテ農學掛ヲ置キ内外ノ農書ヲ蒐集シ有益ノ說ハ各科ニ付シテ之ヲ實地ニ試驗セシメ又農產品類ヲ陳列シテ衆覽ニ供ス八年九月各課釐革ノ際當科ヲ改メテ第六課トナシ之ヲ學校、農業博物館、分析ノ三掛ニ分ツ七年四月府縣ニ令シテ樹

藝、本草、養蠶ノ三科ニ通セル者ノ著書姓名及ヒ意見ヲ開申セシム八年九月農學教師ヲ英國ヨリ招クノ議ヲ決ス尋テ農學校設立、生徒教育、學場規則等ノ數十項ヲ議定シ九年二月十四日僚員ヲ英國ニ派遣シテ農學獸醫學化學豫科試業科ノ教師五名ヲ聘セシム又農學獸醫學ノ生徒各五十員ヲ府下ヨリ募リ豫科試業科ノ生徒各一名ヲ各地方ヨリ招集セシメテ公示シ本年七八月ノ間ヲ以テ來集ノ期トス以上ノ準備ヲナサシカ爲メニ農事修學場、生徒寄宿所、分析所、教師館等ノ數字ヲ支廳内ニ建築セントス然リ而テ教師ノ到ルハ本年十月ニアリ後周年報ノ時期ニ及ハ、學校ノ體面稍備ハルニ至ルヘシ

農業博物館ノ件

凡シ農業博物館ノ設ケハ視官ノ感觸ニ由リ智識ヲ増進セシムルアリ明治七年十月本館落成已來陳列ノ品類稍々多キヲ加ヘタリ今茲ニ本周年間排列ノ品類ヲ掲グル左ノ如シ

農業博物館内外物品陳列表

種類	數	種類	數	種類	數	種類	數
模造柿	九	種	三六	種	一二	種	七
同梨	一	種	二	種	一五	種	二
同桃	三	種	二	種	九	種	二
同雜果	一五	種	二	種	五	種	二
同蔬菜	三八	種	一	種	一	種	四
同牛板齒	三	種	二	種	二	種	一
紅茶	四六	種	六	種	八	種	三
烟草	一	種	二	種	四	種	一
土質原素	四二	種	四	種	二	種	三
各地土砂	一九	種	一	種	八	種	九
雜穀	五	種	一	種	六	種	九
豆	二六	種	三	種	二	種	一
米	九〇	種	八	種	九	種	一〇
麥	合	種	亞	種	雜	種	八

分析ノ件

分析ノ農業ニ關スル大ナリ而シテ其事業精微ニ回ノ試驗モ猶一月乃至半年ヲ經過セスンハ其結果如何ヲ斷定スル能ハサルモノアリ茲ニ本周年間ニ於テ着手セル概略ハ或ハ各種ノ土質ニ就テ養質ノ含否ヲ

檢シ或ハ肥料ニ屬スル養分ノ多寡適否ヲ試ミ或ハ青黛及ヒ茜紫根等
ノ染料ヲ試製シ或ハ菓實蔬菜ヲ糖煎水煎密煎シテ之ヲ鐵葉器中ニ密
封スルノ法ヲ講シ或ハ甜菜根ヲ壓搾シテ砂糖ヲ製シ或ハ羊毛ノ脂油
ヲ洗去シテ晒白ナラシムル等凡ソ農業上ニ於テ必須ナル試驗ニ從事
セリ茲ニ一二分析試驗表ヲ掲ケ併セテ其解說ヲ付スルヲ左ノ如シ

青黛試製ノ說

我青黛ノ品位タル之ヲ舶載物ニ比較スルハ最モ劣レリトイヘヒ畢
竟製法未ク其宜キヲ得サルニ基ツクヲ知ルヘシ而ノ其品質ニ至テハ
必シモ粗惡ナルニアラサルナリ今洋製ト和製トヲ區別比較スルニ洋
製ニ五ノ利アリテ和製ニ四ノ不利アリ夫洋製ハ生葉ヲ乾燥スルニ及
ヒ藍質頗ニ一層ノ良好ヲ増ス是レ一利ナリ之ヲ染用ニ充ツルニ二三
日間ニシテヨク染了スヘシ是レ二利ナリ藍靛輕量ニシテ運搬ニ便ナ
リ是レ三利ナリ藍分純真ニシテ多量ヲ得ヘシ是レ四利ナリ青黛ヲ製
スルノ日數ハ僅カニ十日間ニ過キス是レ五利ナリ本邦固有ノ製法ハ

之ニ異ナリ當初生葉ヲ摘ミ來リ之ヲ日光ニ乾燥スルヲ凡二三日ニシ
テ漸ク之ヲ製了ス所謂藍靛是ナリ之ヲ乾燥スルハ七八月ノ際ニシテ
驟雨一タヒ注ギ來ルハ全葉悉ク廢物ニ屬ス是レ不利ノ一ナリ藍中
ニ多量ノ水分ト雜合物ヲ含有シ且ツ藍靛重量ニシテ運搬ニ便ナラス
是レ不利ノ二ナリ之ヲ染用ニ供セシトスルハ凡ソ一週間ヲ費ヤス
而シテ染法或ハ其度ヲ失スルハ再ヒ用ニ堪ヘサルコト往々コレア
リ是レ不利ノ三ナリ藍靛ヲ製スルニハ凡ソ六十日ヲ經過セサルヲ得
ス是レ不利ノ四ナリ其得失如此明ラカナリ是レ青黛ノ試製ヲ要スル
所以ナリ而シテ此試驗ヲ以テ米人トウマス、アンチセル氏ノ紙幣寮ニ示シ
テ品詳ヲ乞フ同氏乃チ第二號ノ藍ヲ評シテ曰ク水分猶多シトイヘヒ

品質西洋

品ニ比較
スルニ應
ニ第二等

再製青黛分析表

號	元	素	水分	純藍	砒砂	石灰	雜物	合計
一	再製	青黛	一四・五〇	六八・三〇	四・八〇	一・二〇	一・〇〇	一〇〇・〇〇
二	同通	常品	一〇・〇〇	三八・三〇	四・九〇	一・〇〇	一・〇〇	一〇〇・〇〇
三	同イ	ンチセル氏製	八・五五	六九・六四	一・五五	一・〇〇	一・〇〇	一〇〇・〇〇

ニ位スヘ	四	同	松	八三九五	三三三〇	三六二五	一〇〇〇〇〇
シト右ノ	五	同	常品	九八九五	三〇四七五	一七三三〇	一〇〇〇〇〇
試験ニ據	六	同	同製法	五九九〇	三三八〇	三三八〇	一〇〇〇〇〇
リテ本邦	七	同	同製法	九八九五	三三八〇	三三八〇	一〇〇〇〇〇
ノ藍トイ	八	同	同製法	九八九五	三三八〇	三三八〇	一〇〇〇〇〇
ヘ製法	九	同	同製法	九八九五	三三八〇	三三八〇	一〇〇〇〇〇
其宜キナ	十	同	同製法	九八九五	三三八〇	三三八〇	一〇〇〇〇〇
得ハ品質益純良ナリ染用ノ効決シテ洋種ニ譲ラサルヲチ實驗セリ然	十一	同	同製法	九八九五	三三八〇	三三八〇	一〇〇〇〇〇
レ此尙之ヲ染匠ニ付シテ其色様何如ヲ驗セシメ且ツ之ニ關スル一切	十二	同	同製法	九八九五	三三八〇	三三八〇	一〇〇〇〇〇
ノ費額ヲ審査シ然ル後始メテ從來ノ製	十三	同	同製法	九八九五	三三八〇	三三八〇	一〇〇〇〇〇
法ト幾分ノ得失アルヲ徴スルニ足ルヲ	十四	同	同製法	九八九五	三三八〇	三三八〇	一〇〇〇〇〇
以テ將來此青黛ノ試験ニ於テハ未タ何	十五	同	同製法	九八九五	三三八〇	三三八〇	一〇〇〇〇〇
カナル結果ヲナシ得ヘキカヲ預知スヘ	十六	同	同製法	九八九五	三三八〇	三三八〇	一〇〇〇〇〇
カラススト但シ其藍分ノ純美ナルト從	十七	同	同製法	九八九五	三三八〇	三三八〇	一〇〇〇〇〇

製	元	藝
量	種	藍
	貫	數
	二三八七二	量
	九七八五	位

來ノ粗拙ナル製法ヲ改良スヘキノ二件ハ之ヲ今日ニ於テ明言シ得ヘ
キナリ尙逐年ノ試験ヲ經テ之ヲ審カニスヘキノミ

乾糞試驗ノ說

人糞ノ植物ニ卓効アルハ我農
夫ノ古來實驗シ來ル所ナリト
イヘ馬糞家貯蓄ノ際多クハ肥
糞ニ含有スル貴重ノ諸母爾亞
氣ヲ太氣中ニ游離分散セシム
ルヲ以テ其効力隨テ減却スル
ニ患アリトス又其臭氣鼻口ニ
竄入シ人ノ健康ヲ害シ或ハ病
因ヲ醸スノ恐アリ殊ニ遠キニ
輸送スルニ便ナラス此等ノ數
項ハ農家培養上ノ得失ニ關ス

試	驗	堆糞ニ硫酸	堆糞ニ硫酸	堆糞ニ硫酸
分析表	分析表	分析表	分析表	分析表
水	分	分	分	分
有	機	分	分	分
硫	黃	分	分	分
格	魯	分	分	分
安	謨	分	分	分
加	兒	分	分	分
鐵	土	分	分	分
曹	達	分	分	分
麻	屈	分	分	分
合	計	分	分	分

三百十四

三百十五

木
J

[illegible]

周		年	
社號	性質	資金	車限
商行雜業	燃水石油	一〇〇〇〇	五
彫刻彫刻	間農間型		
人參買賣	布令刊布行	七五〇〇	五
生系改生系	柳林農養蠶製	一五〇〇〇	五
漁產諸魚類	育牛農牛		
育生農牛馬	養蠶蠶桑	一〇〇〇〇	
同同	生系改生系		
同同	同同		
農馬農馬	獸皮製	二〇〇〇	
獸皮製	干鮑精寶買	七五〇〇	
干鮑精寶買	浦賀商雜業		
浦賀商雜業	共研製器		
同同	同同		
眞鶴石材	眞誠溫泉客	四〇〇〇	
眞誠溫泉客	殖苗桑苗	五〇〇	三
正商鹽並魚	製系製系	一〇〇〇	四
牧牛牧牛	出版書籍	二四〇〇	
開業雜業	便宜雜業	七五〇〇	
合藥藥賣買	博覽博覽會		
生系改生系	同同		
同同	同同		
魚賣買	同同	一〇〇〇	
同同	同同	一〇〇〇	
盛業別產物賣	信託金銀融	一〇〇〇	
國產物產	和乎通融	二五〇〇〇	
北海海道	產物同		
其休雜業	同同		

鳥獸獵取締ノ件

鳥獸獵取締ノ件ハ元大藏省ノ掌管ニシテ明治七年中地理寮ニ屬シ同年十一月當寮ノ所管ト爲ル以來其規則ニ據リ鑑札渡方條例ヲ編成シ上請裁可ヲ得テ職獵遊獵ヲ區分シ鑑札ヲ印刷シ以テ各地方ニ配賦ス其期限ハ毎年九月十五日ヨリ翌年三月十五日ニ至ルヲ一期限ト爲スト雖此地方ニヨリ耕耘收穫採薪芟蕪ノ季節ニ至リ或ハ其業ヲ制止シテ之カ期限ヲ伸縮シ又ハ深山幽僻ノ地村里隔絶ノ境ニ於テハ特ニ期限ヲ定メサルモノアリ如此ノ類ハ之ヲ地方官ニ委任シ實際ニ就テ斟酌ヲ加ヘ便宜事ニ從ハシム今ヤ八年九月ヨリ本年三月ニ至ルノ間授與スル所ノ鑑札ハ四萬五千四百四拾壹枚ニシテ税金ハ四萬六千三百五拾圓ナリ而シテ人員ノ如キハ四萬五千四百四拾壹名ナリ其詳密ナルヲハ次ノ表中ニ明カナリ

明治八年獸獵鑑札授與並税金一覽表

縣	職 獵				遊 獵			
	鑑札數	税金	人	員	鑑札數	税金	人	員
東京	五七	五七	二四	三三	六九	六九	三三	三三
京都	一四四	一四四	四九	一〇九	一〇	一〇	六	六
大坂	一〇七	一〇七	一一	九六	七	七	一	一
神奈川	三八四	三八四	三	三八	一〇〇	一〇〇	六	六
兵庫	四六六	四六六	三〇	四三	一〇	一〇	一	一
長崎	四二〇	四二〇	九〇	二二〇	一〇	一〇	一	一
新潟	八四一	八四一	八五	七五	一〇	一〇	一	一
埼玉	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一	一
千葉	四八	四八	二二	四六	一〇	一〇	一	一
茨城	五二〇	五二〇	四九	四七	一〇	一〇	一	一
群馬	三〇四〇	三〇四〇	五四	二九八	一〇	一〇	一	一
栃木	一七三七	一七三七	四四	一六九	一〇	一〇	一	一
群馬	二九	二九	四	二五	一〇	一〇	一	一
三重	七二四	七二四	二四	五八	一〇	一〇	一	一
愛知	七五九	七五九	一九	七三	一〇	一〇	一	一
静岡	一〇二六	一〇二六	一八	一九九	一〇	一〇	一	一
山梨	九三〇	九三〇	一八	一九九	一〇	一〇	一	一
滋賀	三七	三七	二六	二五	一〇	一〇	一	一
岐阜	一四九八	一四九八	五七	一四四	一〇	一〇	一	一
長野	一四九八	一四九八	五七	一四四	一〇	一〇	一	一
宮城	一九七四	一九七四	四〇	一八三	一〇	一〇	一	一
福島	九二二	九二二	四	九〇	一〇	一〇	一	一
合計	五七	五七	二四	三三	六九	六九	三三	三三

岩手	一八五	二八五	六三	一一三五	一八五
青森	一七九	二七九	四一	一三八	一七九
山形	一六三	一六三	一一	一五一	一六三
秋田	一八二	一八二	七七	一〇五	一八二
石川	三四七	三四七	八二	一六五	三四七
島根	三三二	三三二	九	三三二	三三一
岡山	三五八七	三五八七	六〇	三三三七	三五八七
廣島	二三五	二三五	二五	二三五	二三五
山口	五八三	五八三	一八七	二五六	五八三
和歌山	三二三	三二三	一八	二九五	三二三
愛媛	六六六	六六六	一六一	四七五	六六六
高知	推開中				
福岡	一三七〇	一三七〇	三七四	九九六	一三七〇
大分	二八〇四	二八〇四	五六六	二二三八	二八〇四
熊本	二二四〇	二二四〇	一二三	九一九	二二四〇
足柄	一九〇	一九〇	一〇	一八〇	一九〇
濱松	五三七	五三七	五	五三三	五三七
若松	三三二	三三二	二	三三八	三三一
三浦	八九五	八九五	三四九	五四六	八九五
敦賀	二四七	二四七	一一一	一二六	二四七
鳥取	三五八	三五八	一〇六	二五二	三五八
宮崎	九四	九四	二一	七三	九四
豐岡	五五一	五五一	九四	四九七	五五一
佐賜	一六	一六	一	一五	一六
磐前	一五八七	一五八七	一〇九	一四七八	一五八七
小倉	二四七	二四七	五九	一八八	二四七

博覽會ノ件

本寮内外博覽會ノ事務ヲ幹理スルハ明治八年九月ヲ以テ初メトナス
爾來各府縣ニ於テ會場ヲ開設セント請フ者ハ其目的及ヒ着手ノ方法
等ヲ調査シテ之ヲ允可セリ抑維新ノ初府縣ニ於テ博覽會ノ舉アリシ
ハ京都、和歌山、奈良、度會等ヲ以テ首唱トナス他ノ地方ノ人民ニ至テハ
未タ博覽會ノ何物タルヲ辨セサルモノ居多ナリシニ今ヤ各地人民官
設ヲ待タズシテ相競フテ開設スルモノ歲々逐フテ増加セリ然其間
或ハ射利ノ計ニ出テ其展列スル所モ徒ラニ古器舊物ニ偏シ實用有益
ノ物品ニ疎ナルノ景況ヲ免カレサルモノアリトイヘト京都府ノ如キ

ハ官民銳意毎年開場スルカ故ニ時好ノ適否ヲ考察シ農工ノ進歩ヲ鼓舞スルノ方法ニ於テモ頗ル觀ルヘキモノアリ之ヲ要スルニ各地會場ノ如キモ亦將來民智ノ開進ニ隨ヒ其體面稍備ハルニ至ランカ茲ニ本年府縣開會一覽表ヲ掲クルヲ左ノ如シ

本周年府縣博覽會開場一覽表

府縣別	會場地名	開場年月日	閉場年月日	願出ノ分	届出ノ分
京都府	御所	內九年三月十九日	九年六月二十二日		西三年以前ノ年々開會ノ由ナレ 此開會ハ力不列也
石川縣	金澤町公園地	同年四月十日ヨリ 但毎年四月ヨリ十月迄 月々三日間小會	同年四月三十日		九年一月二十八日
筑摩縣	信州上諏訪町	九年四月二十日	九年五月四日		
宮城縣	國分	同年四月十五日	同年六月三日	九年三月八日	
同	同	同年六月四日	同年七月三日		同年五月三十一日
堺縣	堺南宗寺	同年四月十日	同年五月八日	同年三月廿九日	
熊本縣	河原町順正寺	同年四月十日	同年六月八日	同年三月十五日	

熊谷縣	通町安國寺	同年四月一日	同年四月廿五日		同年三月廿八日
筑摩縣	明盛村	同年四月二十五日	同年五月十日		同年四月十七日
同	南國伊那郡	同年四月二十五日	同年五月四日		同年四月廿四日
同	飯田郡上	同年四月二十五日	同年五月十五日		同年四月廿五日
同	穗國同郡赤	同年六月四日	同年七月三日		同年五月二日

豪洲昨厘府博覽會ノ件

豪洲維的里亞國昨厘府博覽會ノ興行アルヤ明治八年二月彼政府ヨリ書ヲ寄セ我邦天造人作ノ諸物品ヲ裝載シ其會場ノ覽觀ニ充ンリテ懇請ス其旨趣タル此會場ヲ以テ兩國ノ好ミヲ修メ以テ將來貿易ノ道ヲ開キ互ニ國益ヲ謀ラントスルニアリ本寮是カ議ヲ建テ曰ク抑豪洲ノ地タルヤ南半球ニ位スト雖地緯度概不相同シク寒溫ノ氣候大差アルヲナシ故ニ其動植物ヲ我國ニ移サハ其蕃殖ヲ致スヤ疑ヲ容レス且其用法効驗必ス我ニ適スルモノアランカ今博覽會ノ設ケアルニ際シ

彼ノ所産ナ一場ニ就テ目撃シ彼ノ無キ所ヲ以テ我ノ有ル所ニ易ヘ而シテ其所産及川法等ヲ以テ我國ニ施リントセハ此請ニ應スルニ如クハナシ就中蒙洲近コロ大ニ力ヲ牧畜ニ盡シ畜羊ノ數凡四千万頭羊毛ノ英國ニ輸スルモノ歲ニ五千万圓ヲ以テ算スト我國近年肉食スルモノ日一日ヨリ多ク毛布ヲ服スル者亦年々逐テ増加ス而シテ牧羊ノ術毛布ノ製未ク之ヲ施コサス徒ニ輸入ヲ外國ニ仰クノミ從前毛布ノ我國輸スル皆歐洲ヨリス而シテ英國ノ如キ羊毛ヲ蒙洲ニ資リ本國ニ至テ之ヲ製シ再ヒ舶載シテ我ニ輸ス我國ノ蒙洲ヲ距ル蒙洲ノ歐洲ヲ距ント甚タ異ナルヲナシ故ニ我國直チニ之ヲ蒙洲ニ取ラハ其船費ノ半ヲ減シ加之我國雇工ノ賃之ヲ海外ニ比スレハ甚賤シ是レ毛布ヲ製シテ其價歐洲ヨリモ廉ナルヤ必然タリ我政府此數件ヲ考量シテ宜シク其請ヲ許ス可シト本議裁可アリテ勸業寮七等出仕橋本正人ヲ事務官ニ任シ同九等出仕坂田春雄ヲ補員トシ更ニ農事研究ノ爲メ同十二等出仕舟木眞同十三等出仕飯田孝次等ヲ派遣シ且交際間ノ事ヲ繼續セ

シメシカ爲メ在東京英人ロペルトベイチナル者ヲ僱ヒ隨行セシメ六月一日ヲ以テ發船ス時ニ工商會社及ヒ七寶會社ノ者數名同船ニ在リ八月二日彼國サントリツチ港ニ着船セシニ博覽會書記官レベイチナル者船中ニ到リ迎接シ翌三日一行上陸シテ同國ノ總督及博覽會幹事等ニ接見ス八月十一日我國ノ出品ヲ粧飾陳列シ了リ價表ハ國九月二日開場式アリ十一月十三日ヲ以テ閉場ノ期トス而シテ我國事務官ハ博覽會ニ接近ノ書籍館ニ屬スル彫鏤ヲ加ヘタル長室五百七十ヲ借得テ工商會社ニ占領セシムルヲ以テ充分ニ諸物ヲ陳列シ且長室中ニ許多ノ瓦斯燈ヲ増加シタルカ爲メ閉場ノ後我國ノ商人等展覽品ヲ収裝スルニ臨ミ氣燈ヲ要スル時ハ終夜之ヲ點シ又列品ノ内同種ノ多寡ニ應シ開場中ト雖モ之ヲ賣却スルヲ得ヘキ等ノ許可ヲ得タリ而シテ此賣買取引ニ關スル英人書記官一名アリテ商人ノ賣品勘定簿ヲ掌トリ賣品受取ノ證ヲ附與ス其他看守ノ者ハ常ニ室內ニ在テ展覽品ヲ保護セシカ我國物品陳列ノ室內ハ觀客常ニ群集スルヲ佗ニ超ヘタリ依テ

彼國事務官及書記官等曰ク千八百六十六年ノ博覽會ニ此スルニ如此
 キ盛大ノ功ヲ奏セシハ全ク日本出品ノ功居多ナリト保證シ且賞牌二
 箇ヲ贈レリ又我出品中最モ衆人ノ賞譽ヲ得シハ木片ヲ嵌入シテ製セ
 シ箆筒案盆及ヒ沏藥ヲ注キタル銅製ノ器物等ナリキ閉場後十一月十
 三日彼地出發本年二月七日ヲ以テ歸朝セリ然ルニ曩日政府ニ開陳セ
 シ豪洲ノ工場牧場其他動植物諸試驗等ノ事項ハ各委員彼地滞在中遍
 ク歴覽スル所ニシテ橋本正人カ錄呈スル所ノ豪洲博覽會紀行ニ登載
 スト雖ヒ其條款多クシテ之ヲ枚舉スルニ遑アラス

該博覽會ニ付支消セル諸經費金貳千貳百三拾六圓八拾錢洋錢一萬貳
 千九百貳拾五弗八拾六セント、ス而ノ目今清算中ニ屬スルヲ以テ其
 內譯ヲ詳記スルヲ能ハス且諸會社ノ自費出品百二十七箱ノ元價壹萬
 三千五百三拾圓九拾貳錢六厘ノ內賣捌高三拾箱ニシテ代價金七千七
 百拾七圓九拾八錢六厘トス然ルニ残り品九十七箱元價壹萬貳百三拾
 壹圓拾九錢一厘ハ保險條約ヲ以テ積戻シノ際難船ニ依リ悉皆海中ニ

投入セリ因テ償金壹萬千八百圓ヲ子ザラント保險會社へ請求シ今
 猶掛合中ニ屬セリ

報告ノ件

維新ノ後政府勸業上ニ付テ報告書ヲ刊布セシハ明治三年二月民政部省
 ヲリ養蠶試驗法ヲ頒チタルヲ以テ嚙矢トス尋テ養蠶試驗方下問書ヲ
 各地ノ養蠶家ニ下付ス其問題ニ應シテ從來慣用ノ方法トヲ筆記上申
 セルモノ頗フル多シ五年五月ヨリ八月ニ至リ大藏省勸農寮ヨリ蠶種
 生線ノ說製糸告諭文、山繭養生告諭書等ヲ示シ六年二月傳染馬病豫防
 及治療法ヲ頒チタリキ

七年本寮開立ノ後海外報告又ハ上申書類ニ就キ勸業事務上ニ於テ尤
 モ必要ノ件ヲ錄シ十二月以來始テ勸業報告ヲ刊布セリ其第一號ニ於
 テハ本邦產茶ノ品類分析試驗、及ヒ効用ノ諸說、桑紙試製、生繭貯保法、製
 糸摩撚器械鹿火腿製法、沃陳製鍊會社設立ノ事、米國生糸會社年報等ノ
 數件ヲ錄シ八年六月第二號ニハ養蠶說、製茶試驗說ヲ掲載セリ

來此良種ノ繁殖ヲ預期スヘキカ六月第九號ニ米國アレクサンダー氏カ牧牛法ヲ譯出シ第十號ニハ佛國在留中野簡明カ禾花煤助法ノ得失ヲ同國ノ農學家ニ質シタル報告ヲ掲ケタリ

圖書編述反譯ノ件

凡ソ農工ノ改良ニ赴ムクハ各自實驗ノ結果ニ出ツルトイヘル其進步

ヲ助ケ

實驗ノ

地ヲナ

ス所以

ノモノ

ハ圖書

ノ効力

與カ

多

圖書編述反譯表

書名	刊行	脱稿	譯者	校者
ヘンリー・スチフ・ヘン氏 斯氏農業問答書	七		岡田好樹長川新吾	
獨逸農事圖解 至第十一號	五		後藤達三平野榮	
フハン・カス・デール アレン氏牧牛法	一		鳴門義民	
米國華盛頓府農事年報		一同		
外國蔬菜栽培法	一		同	

本家
現ニ編
述反譯
スル
書若干
アリト
イヘ
未タ全
ク其稿
ヲ脱セ
サル者
頗ル多
シトス
將來益

英國農學校大意	一	同		
米人ケブリン氏 日本農業辨	一	同		
英倫農業會社規則	一	舟木眞		
馬病治療法	一	望月誠		
獨乙ハーベルランド氏 養蠶圖	五	熊澤善菴		
諸業分析表	一	舟木眞		
米國煙艸栽培法	一	林正雄		
牛病通論	七	錦織精之進		
印度地方農業會 社造茶新論	一	梅村達三		
米國專賣免許規則	一	島田主善		
佛國免許法	一	豐島佳作		
合計	一七	四八	一二	三
書目				
農政垂統紀		四	高織島田千畝之	

[illegible]

下總國牧羊場ノ件

牧羊ハ本邦未曾有ノ一大學業ナルヲ以テ上請シテ裁可ヲ得特ニ一時

ノ資財ヲ惜マズ鴻益ヲ永遠ニ期スルノ目的ヲ以テ明治八年五月委員拾數名ヲ置キ岩山勸業權助ヲシテ其事ヲ督セシメ米國ノ牧羊家デ、ダ
ザリウ、アツプ、ジョンス氏ヲ備ヒ月給五百圓ヲ與ヘ其業ヲ總理セシム
而シテ成功ノ后ハ同氏ニ給料ノ外純益金十分ノ三ヲ分與スヘキノ契約
ヲ結ベリ又同國人ドクトルレニザム氏ヲ備ヒ月給二百五十拾圓ヲ與ヘ
之ヲ補助セシメ且ツ府縣ニ告ケテ牧羊生徒五十有餘名ヲ徵集シ將ニ
綿羊七千餘頭ヲ海外ヨリ購求シ旁ラ内外牛馬ヲ蕃殖改良スルノ術ヲ
傳習セシメントス

牧羊場ハ千葉縣下下總國印旛郡十倉七榮^{クラエ}ノ兩村^此地從前高野内野ト
殖生郡十倉三村^此地未タ著トニシテ總坪凡ソ三千餘町アリ其方位ノ
如キハ北緯大約三十五度四十分東經零度三十分ニ在リテ西ハ東海ヲ
距ル七里南ハ上總ニ亘リ東南ハ矢立浦ヲ距ル凡ソ五里西北ニ印旛沼
アリ氣候ハ東京ト大同小異極暑寒暖計九十三度ニ達ス^日正月四風雨鍼
二十九小數九十二上ル^日同月同地形概平坦土質多クハ鹽土ニシテ即

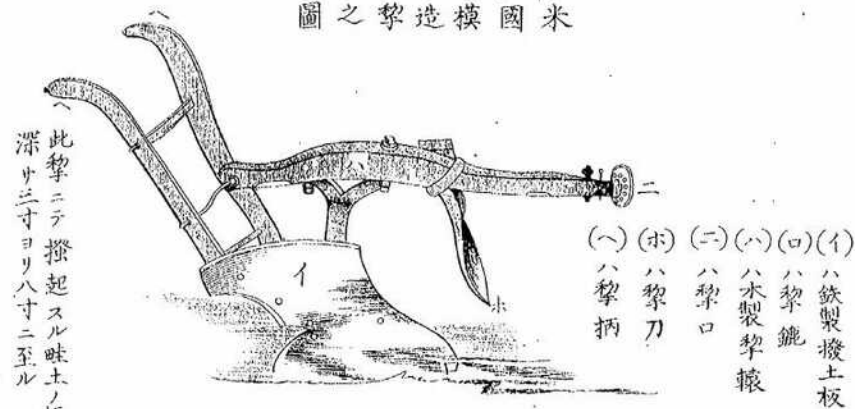
チ黒色ノ腐土上層ヲ作シ赤色植土其下層ヲ爲ス松林遠シ散立シテ恰
 元青丘ヲ眺ムカ如ク濯水草茅蔓延シテ村落ヲ見ス實ニ沙漠ナル一大
 原野ナリ

明治八年九月大久保内務卿河瀬勸業權頭委員ヲ率テ該地ニ到リ牧場
 ニ充ツ可キ土地ノ全面ヲ卜定シ尋テ之ヲ購求シ分ツテ五大區トス第
 一第二第三第四ハ十倉ニ屬シ第五ハ七榮ニ屬ス而シテ其反別第一ハ五
 百三町七反三畝二十三歩余第二ハ四百二十八町九反九畝四歩余第三
 ハ二百六十一町八反七畝余第四ハ二百七十町五畝二十七歩余第五ハ
 四百四十六町六反八畝十二歩余ナリ第一區内ニ本廳ヲ設置シテ場内
 一切ノ事務ヲ總括シ其他各區ニ取締所ヲ設テ管長一人ヲ置キ區内ノ
 事務ヲ管理セシメ道路ヲ開キ堤防ヲ築キ官舎畜舎ヲ建築シ更ニ荒蕪
 ナ錫ヲ牧草ト紅白苜蓿貓尾草トツブナ藜キ穀菜黍大麥燕麥稷麥玉蜀黍種
 ヲタリ

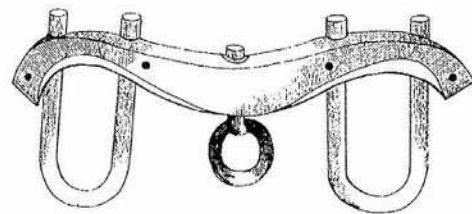
開墾ノ業ヲ創ムルニ當リ内務新宿勸業寮支廳内工場ニ於テ洋製ニ模

倣シ新ニ犁耙等ノ耕具ヲ製出スルヲ圖ノ如シ

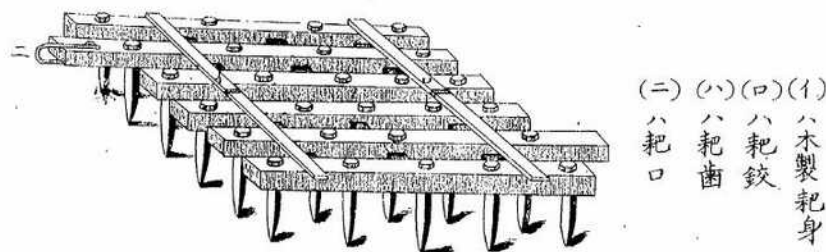
圖之犁造模國米



圖ノ軛上同



圖ノ耙上同



開墾ノ方法ハ初メ牛耕ニ決スルヲ以テ青森縣ニ於テ牡牛八拾頭平均頭
凡三十牝馬二十頭ニ率馬等ヲ購求シ其他東京ニテ買取セル牧牛四十
二頭ノ羣ヲ截拔シテ劔牛凡獸類ノ羣九ヲ截拔セルハ第一淫情ノ發
餘頭ノ羣九ヲ截拔シテ劔牛凡獸類ノ羣九ヲ截拔セルハ第一淫情ノ發
抵觸スルノ勢ヲ防シムトナシ牛軛壹個ニ耕牛二頭ノ比準ニテ三軛ヲ
一組トナシ都テ拾八頭ヲ三組ニ立テ零動作ニ馴ルハ以テ一挺ノ羣
ニ六軛ヲ繫キ之ヲ二組ニ分チ十二頭ニ農夫四五人ヲ付シテ之ヲ用フ
十一月第一區内(字兩國沖)二十反余ノ地ヲ開墾セリ是ヲ開墾着手ノ初
トナス初ハ唯僅ニ二十反ノ地ヲ耕勸セシモ其後纔ニ一ヶ月ヲ經過シ
農夫耕牛較此業ニ馴ルハ及ンテ耕牛二組ニ別ニ一組ヲ併セ羣壹挺
ニ付毎日凡四反歩ノ地ヲ開墾スルヲ得タリ又東京ヨリ來ル牡牛二十
七頭ヲ肥ニ繫キ前ニ耕撥セル畦上ヲ破碎セシメ略運動ニ馴ルハモノ
ヲ羣牛ニ組ミ漸ク七組ニ及ヒ其内五組ハ一日ニ四反歩ヲ耕勸スルモ
他ノ二組ハ未タ其効用ヲ等クスル能ハカリヨニ本年一月ニ至リ初メ
テ供ニ五反歩ヲ勸クヲ得タリ

開墾地ノ形勢ハ前ニ記スル如ク灌木茅滿野ニ蕃衍シ其根ノ長キハ
二尺短キハ八寸一挺ノ羣ニテ毎日撥起セル根塊大抵五百貫餘ナリ斯
ニ人耕ノ費額比例ヲ算スルニ牛耕ノ人耕ヨリ少ナキ殆ント半價ナル
ベシ然ルニ九年一月ノ初ヨリ耕牛ノ中「リンドルベスト」ト稱スル傳染
疫ヲ發シ累々斃ルハ百有餘頭易コノ傳染疫ヲ諸國ト雖ハ未タ治術ヲ究ム
スル能ハス其病勢ヲ防カントスル只之ヲ撲殺ニ及ヒ僅ニ二十六頭ヲ存
セリ因テ現在ノ馬力人力ヲ以テ僅ニ耕勸ノ業ヲ續クヲ得タリ同年三
月興州ニ於テ牝馬ヲ購求シ燕麥並ニ紅白苜蓿、貓尾草、王蜀黍等ヲ播種
ス此際牧羊生徒入場ス曩ニ購求スル所ノ牝馬三百五十餘頭來着セシ
ヨリ斷然牛耕ヲ癡シテ更ニ馬耕ニ代ヘシニ開墾甚タ駛捷ニシテ牛耕
ニ比スルニ殆ト一倍ノ差異アリ爾來既ニ表面ニ記スル所ノ百有餘町
歩ヲ墾開スルヲ得タリ同月場内開墾地ヨリ肥田ス所ノ灌木ノ根塊ヲ
聚メ新ニ炭竈ヲ設ケ農夫ヲシテ日々木炭ヲ製シテ該廳ノ日用ニ供ス
又「ザヨンス」氏清國ニ派出セシメ各種ノ綿羊千餘頭ヲ購求セントス矢

作牧ノ如キハ未タ着手ニ至ラス仍テ從前ノ施行ノ成績ニ就キ表ヲ製スルヲ此ノ如シ

總州牧羊場一覽表

各區ノ區別										名	別	畜	產	農	具
第一區	第二區	第三區	第四區	第五區	總計	高田	入高堀	同新土手	外内入						
八七六	〇四〇	一五九	〇四六	一六八	一六八	八七六	〇四〇	一五九	〇四六	兩國	未開墾	農馬	乘馬	牛	羊
四一六	一九〇	四三六	〇三七	二六八	一六八	四一六	一九〇	四三六	〇三七	牧ノ入高堀	農馬	乘馬	牛	羊	猪
二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	同新土手	農馬	乘馬	牛	羊	猪
二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	外内入	農馬	乘馬	牛	羊	猪
二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	猪ノ頭	農馬	乘馬	牛	羊	猪
二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	袋大金	農馬	乘馬	牛	羊	猪
二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	込溜堀	農馬	乘馬	牛	羊	猪
二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	久能	農馬	乘馬	牛	羊	猪
二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	山能	農馬	乘馬	牛	羊	猪
二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	入前	農馬	乘馬	牛	羊	猪
二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	矢作	農馬	乘馬	牛	羊	猪
二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	牧	農馬	乘馬	牛	羊	猪
二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	總計	農馬	乘馬	牛	羊	猪
二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一		農馬	乘馬	牛	羊	猪

建 築										人 員	金 額
本廳	分局	取締所	官舎	畜舎	病舎	農夫舎	製作場	官員	御雇		
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	外國人	生徒費
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	農夫	生徒費
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	生徒	生徒費
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	御雇	生徒費
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	官員	生徒費
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	製作場	生徒費
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	農夫舎	生徒費
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	病舎	生徒費
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	畜舎	生徒費
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	官舎	生徒費
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	取締所	生徒費
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	分局	生徒費
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	本廳	生徒費

此金額ハ明治八年七月ヨリ同九年六月ニ至ル該場經費仕拂ノ總額ニシテ其費目ヲ大別シテ二科トス一ハ牧羊費一ハ生徒費ナリ牧羊ノ費ノ内ニ給與費應中費外國人營繕費等ノ細目アリニハ生徒費患者費營繕費等ノ細目アリ

上州富岡製絲場ノ件
本場ノ起原ハ明治三年閏十月七日民部省庶務司之ヲ管シ四年七月廿七日同省廢セラレテ大藏省勸業司ニ屬ス八月十三日同司廢セラレテ勸農寮ニ屬シ五年十月九日同寮廢セラレテ租稅寮ニ屬シ明治七年一

（備考）
カ

月九日內務省勸業寮ヲ置カレ其所轄トナリ今ニ至ル而シテ施行事務ノ旨趣ハ我邦蠶絲ノ名風ニ海外ニ著ハルト雖モ製方精良ナラサルヨリ實益ヲ得ルヲ能ハサルガ故ニ其方法ヲ研究シ器械ノ得失ヲ審明シ糸質ノ精粗ヲ識別シ製糸ノ品位ヲ進メ而シテ後始メテ興利ヲ生スルノ理由ヲ開示シ以テ人民ヲ勸誘セントスルニ在リ乃チ佛國ヨリ男女工師ヲ雇入レ器械ヲ購求シ明治五年十月四日ヲ以テ始テ開場シ內國工女ヲ募テ就業傳習セシメ爾來交替受業セシ者凡ソ二千餘人ノ多キニ至レリ

工女養成方ハ凡五百人餘ヲ要セシ所創業ヨリ二年許間ハ雇入チ願フ者鮮ナク其招募ニ應スル者モ亦多クハ年期ヲ約スルヲ欲セサルカ爲メ出入織ルカ如ク實ニ本場事務ノ一難事タリシニ習慣ノ久シキ出願ノ者漸次有之ニ付七年ノ秋ヨリ雇期ヲ定メテ三年ヨリ五年トシ八年ノ冬ヨリ暇日ニハ游觀ヲ許シテ其鬱抑ノ氣ヲ舒暢セシメ本年ノ春ヨリ近傍地方ノ者ハ通勤スルヲ許セシニ其便ヲ知リテ入場スル者稍多

シ更ニ縫針筆算讀書等シ藝術ヲ講習スルノ法ヲ立テ其心志ヲ固フス是工女ヲ養成スルノ概略ニシテ其業ノ成否ハ心意ノ向背ニ在ルヲ以テナリ

本場經驗中現ニ其便益ヲ得ルモノハ佛國器械ヲ用テ良好無比ノ生糸ヲ得ルト又繭ヲ日ニ晒スル無ク蒸燥ノ二方ヲ施コシ之ヲ貯フレハ蛆蛾ノ出ル害ナクシテ其光澤ヲ失ハサルトニアリ雇工首長ブリュナ氏ノ示教ニ依ルモノニシテ其見込書ニ於テ毫モ違フコナク果シテ全國製糸人ノ仰望シテ模倣スル處トナレリ

明治五年十月開業ヨリ八年六月ニ至ル二周年八月ノ定額經費合計金十三万四千七百五拾五圓五拾錢洋銀三万九千九百四十枚ニシテ製糸ヨリ生スル利益金僅カニ貳万四千三百七圓五拾七錢ナリ之ヲ差引金拾壹万三千百六拾七圓九拾四錢五厘洋銀三万九千九百四十枚ノ不足ヲ生セリ今其然ル所以ノ事由ヲ考フルニ蓋シ敷條アリ第一初メノ見込書ニハ精熟ノ工女ノミヲ用フルノ準ヲ以テ概算スレハナリ第二本場

工女ハ悉ク新募未熟ニシテ線系ノ際多ク屑系ヲ出シ且雇入一ケ年許ハ總テ半業ノ者ナルカ爲メナリ第三繭糸價年々低下シ買賣上ニ於テ許多ノ不定ヲ生シタルト第四百事試験ニ類シ冗費多々ナリトニ由テナリ是レ實際已ムテ得サル者ニシテ斷シテ器械ノ便ナラザルト方法ノ宜シカラサルトニ關スルニ非ス凡新規ノ大業ヲ起ス當ニ然ルヘキ者アラシク歟之ヲ證スルニ本年ノ如キブリユナ氏去リテ經費十分ノ二ヲ減シ繭ト系トノ價大略相持シテ利益幾倍ヲ増シ殆ント得失相償フニ至ルヲ以テモ亦知ルヘキナリ

開業初年ヨリ明治九年六月マテニ消費セシ拾五万圓金ヲ以テ試ニ今ノ傳習得業ノ者二千餘人各所ニ散在シ製糸ノ教師タルニ足ルヘキモノト對照シテ一人傳習ノ爲ニ用フル費額金七拾五圓ト看做シテ概計スルハ曩ノ拾五万圓モ亦償却スル所アルカ如ク況ンヤ一般製糸上ノ便益ヲ開示シテ其品位ヲ進メメ既損ノ聲價ヲ挽回スルニ至テハ該塲開設ノ功與リテ多ナリトス因テ將來ノ景狀如何ヲトスルニ事々經

驗疑義明了シテ百般ノ事務立辨セサルナク將サニ其結果ヲ異日ニ觀ルモノアラントス

貯水鐵盤寸經四丈九尺五寸ノ設アル所以ハ線用ノ水ヲ溜メテ之ヲ清淨ニスルハ製糸ノ光澤一層美ハシク彈力モ亦強キヲ以テナリ依テ此盤ヲ鑄造シテ該塲ニ備フ此水量四日分凡二千餘石ヲ容ル可シ

用水升湧ク所ノ水日用ノ半ニ供スルニ足ラズ是ヲ補フカ爲メニ地中ニ一水竇井一名横ヲ設ケタリ其制タル井中水面ヨリ八尺許下ヨリ北ニ向ツテ幅貳尺深サ首ハ八尺尾ハ五尺長サ九十間ニシテ蓋フニ石ヲ以テ外部ヲ平坦ニス其湧泉清冷ニシテ井水ノ減スルニ隨ヒ流出シテ井中ニ入レ而シテ唧筒ニテ吸取スル一日ノ用水凡五百餘斛ナルモ其減スル僅力ニ數寸ナルノミヨノ水道ヲ開鑿セシヨリ用水潤濁ノ兩患ヲ忘ル

石炭坑一ハ寺尾村字館一ハ乘附村一ハ秋間村トス何レモ富岡ヲ距ル一三四里ニ過キス其質同シク下等ナリト雖モ該塲ノ需用ニ供スヘシ

二百四十四

本 周 年						前 周 年					
製 係 稱	數 量	單 位	通 貨		數 量	單 位	通 貨				
			金	弗			金	弗			
一、等貫	一一九三	一七三	八七〇九	四二三	四七八八	五三	上九八	五四	四〇九九六	一二五	
二、等貫	一〇五七	六三九	二七七	八三三	四九八五六	三八	一四四〇	二六二	六七〇七〇	四一五	
同、下		三七	一七七一	六〇一							

本 周 年				前 周 年			
製 係 稱	數 量	單 位	通 貨		數 量	單 位	通 貨 價 圓
			金	弗			
一、等貫	一一九三	一七三	八七〇九	四二三	四七八八	五三	上九八 五四
二、等貫	一〇五七	六三九	二七七	八三三	四九八五六	三八	一四四〇 二六二
同、下		三七	一七七一	六〇一			六七〇七〇 四一五

[illegible]

同 逆 壓		概力要力ノ差		經		深		底面斜度ノ終		水 量	
一、三、キログラムマ		〇、四二		一五、一六メートル		二、一〇〇メートル		〇、三〇〇メートル		三十六万千〇十盞〇五二四八	
揚 杵 機 關		煙 筒		唧 筒		鉄 箱		細 大 附 屬 品		五七、二〇七	
十 二 臺		高十二丈二尺一寸		經四尺三寸							

泉州堺紡績場ノ件

泉州堺戎嶋ニアル紡綿器械所ハ鹿兒島縣士族石川正龍カ舊時藩命ヲ奉シ建設スル所ニシテ明治五年藩債調査ノ際此紡綿器械ヲ以テ二萬九千三百三拾二圓餘ノ公債ニ充テ五月中大藏省勸業寮ノ所轄トナシ官有地凡四千四百九拾餘坪器械室一戸梁間拾六間蒸氣機械二馬力付十座製糸機械拾一座打綿機一座梳條機二座附屬機械一座坐粗工男二十四人工女三十二人ヲ雇ヒ百事舊ニ仍テ施行セシメ是年十月勸業寮ヲ廢

セラレテ租稅寮ニ屬シ又七年一月內務省中勸業寮ノ所轄トナリ以テ今ニ至ル然ルニ本場器械未タ全ク具備セサルヲ以テ同年中梳條機二坐粗紡機三座ヲ増置シテ稍々整備スルカ如シト雖ヒ機械ノ重力ヲ増スカ爲メ從前ノ蒸氣力馬力十二ニテハ自由ニ運轉ナシ難ク徒ニ其勞費ヲ増シテ其効用ナクカ故ニ相當ノ蒸氣器械ニ換用セシメテ謀ル而シテ該業施行ノ日猶淺シ販賣ノ路モ亦未タ全ク開クス且價格ノ低昂ヲ商量シテ製出ノ綿糸未タ賣了セサルモノ極メテ多ク因テ經費收入等ノ成算ヲナシ難シト雖ヒ姑ク目今ノ通價ニ依リ概表ヲ製スルヲ左ノ如シ

本周年堺紡綿絲増減比較表

種 類	年 度	本 周	前 周	年 度
綿 絲	數 量	通 價	數 量	通 價
七 月	四、五六六、一八八	一、六六六、六五八	二、二二一、四八一	八、一〇八、四一
八 月	三、八〇八、六八八	一、三九〇、一七一	一、二二一、四八一	四、〇九五、八五
九 月	三、六八四、五	一、三四四、八六五	二、四八三、四〇六	九、〇六四、四三

三百五十

本周年ノ間本寮ニ於テ處分セシ事務前周年ヨリ繁忙ニ赴ムシテ同議
文書ノ増加セルヲ以テ證スヘシ今其件數ヲ精査スルニ總計六千四百
拾五件ニシテ正院ノ命令ニ係ルモノ八十三卿輔ノ判決ヲ乞ヒシモノ一
千百七拾三頭助ノ專決ヲ經シモノ四千八百八十九之ヲ前周年ニ比較
スルニ一千七百四十一ノ數ヲ増加セリ此レハ豪洲メルボルン府米國
ヒラデルヒア博覽會ノ事務支那製紅茶綠茶ノ試製下總牧羊場其他農
工諸業ノ試驗等各般ノ事務日ヲ逐フテ増殖セシヲ以テナリ而シテ回
議ノ種別及増減ヲシテ一目瞭然ナラシメンカ爲メ左表ヲ附セリ

種類				月數		通計	
正院 會 議	常務 會議	秘書 處	指 令	決 裁	諸 達		
			四	四	一		
			二	七			
			三	五			
			二	七	一		
			一	九			
				四			
				二			
				一	五		
				二	三		
						八	
						一	
							五
							四

[illegible]

本周年六月卅日ノ調査ニ據ルニ官員ノ數總計三百七拾六人ニシテ之
チ前周年六月卅日ノ現員ニ比較
スルニ卅六名ノ數ヲ減少セリ此
レハ本年五月勸商局設立ニ際シ

本周年官員増減比較表	
官	級
人	員
一	等

本年	官	員	增減比較表
一	級	人	
等		員	

出納ノ比較

本周歲ニ於テ收入スル所ノ金額
官祿稅千貳百九拾三圓七拾五
錢不用品拂代千九百九拾五圓貳
拾八錢七厘蠶種原紙賣下代九萬

[illegible]

二百五十二

總	計	三七六
前年比較	增	三六
減		

七千九百九拾貳圓三拾八錢試驗
品拂代百拾貳圓貳拾七錢四厘牛
馬拂代千四百九拾九圓貳拾五錢ニシテ總計拾萬貳千八百九拾貳圓九
拾四錢壹厘ナリ又經費ノ金額ハ常費四拾四萬四千貳百四拾六圓拾錢
八厘額外費貳萬千八百三拾八圓六拾壹錢貳厘ニシテ總計四拾六萬六
千八拾四圓七拾貳錢ナリ

昨年ニ於テ本周年ノ經費ヲ豫算セシハ六拾壹萬千四百六拾三圓拾六錢八厘ナリシカ實費四拾六萬六千八拾四圓七拾貳錢ニシテ之ヲ豫算ノ額ニ比較スレハ拾四萬五千三百七拾八圓四拾四錢八厘ノ有餘ヲ生セリ然ルニ本年七月本寮ノ經費金ヲ豫定シ百五拾四萬四千四百五拾圓トナスモノハ新ニ許大ノ事業ヲ興シ以テ民利國益ヲ謀ルモノ年々

収 入		増減比較表	
官 錄	稅	增	減
不用品拂代	一二九三七五		
籾種原紙賣下代	一九九五二八七		
試驗品拂代	九七九九二三八		
牛馬拂代	一一二二七四		
合 計	一〇二、八九二、九四一		
前年比較	一、八三四、〇一八		

收 入 目					本周年諸收入增減比較表	
官 錄	不用品拂代	籐種原紙賣下代	試驗品拂代	牛馬 拂代	合 計	增 減
一、二九三、七五	一、九九五、二八七	九七、九九二、三八	一一二、二七四	一、四九九、二五	一〇二、八九二、九四一	一、八三四、〇一八

三百五十三

定 額 常 費													
合 計		農 業 試 験 費				外 國 人 諸 費				應 中 費			
新 規	外 國 旅 費	運 送 費	物 品 買 上 費	畜 類 買 上 費	木 草 種 買 上 費	需 用 費	恩 賜 費	諸 種 費	諸 種 費	修 繕 費	新 築 費	接 待 費	郵 便 送 費
計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計
八、二八二、八九四	八、一八九四	一、七四八	一、三三九	六、五八〇、四一三	一、三三九	一、〇〇五、八	一、〇〇五、八	一、〇〇五、八	一、〇〇五、八	一、〇〇五、八	一、〇〇五、八	一、〇〇五、八	一、〇〇五、八
二、九五四、四一二	六、八五六一	一、三九〇、〇〇七	二、八二五	七、九三〇、九六六	四、九六二、八七八	四、三九九、一二四	九、八〇五	四、五八六、六七	一、四二二、二二五	一、一六八、五	一、一六八、五	一、一六八、五	一、一六八、五
二、七六、七四	二、九五四、四一二	六、八五六一	一、三九〇、〇〇七	七、九三〇、九六六	四、九六二、八七八	四、三九九、一二四	九、八〇五	四、五八六、六七	一、四二二、二二五	一、一六八、五	一、一六八、五	一、一六八、五	一、一六八、五
二、七六、七四	二、九五四、四一二	六、八五六一	一、三九〇、〇〇七	七、九三〇、九六六	四、九六二、八七八	四、三九九、一二四	九、八〇五	四、五八六、六七	一、四二二、二二五	一、一六八、五	一、一六八、五	一、一六八、五	一、一六八、五

三百五十六

定 額 常 費													
合 計		農 業 試 験 費				外 國 人 諸 費				應 中 費			
新 規	外 國 旅 費	運 送 費	物 品 買 上 費	畜 類 買 上 費	木 草 種 買 上 費	需 用 費	恩 賜 費	諸 種 費	諸 種 費	修 繕 費	新 築 費	接 待 費	郵 便 送 費
計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計
八、三六四、〇八八	七、三九六、八二一	一、四三六、六〇六	一、〇九九、四四一	七、〇〇〇	一、〇九九、四四一	一、〇九九、四四一	一、〇九九、四四一	一、〇九九、四四一	一、〇九九、四四一	一、〇九九、四四一	一、〇九九、四四一	一、〇九九、四四一	一、〇九九、四四一
二、二八三、三三三	一、七六	一、三三五	二、四五一	六、五九三、二六	一、三三一、六七五	六、五九三、二六	一、三三一、六七五	六、五九三、二六	一、三三一、六七五	六、五九三、二六	一、三三一、六七五	六、五九三、二六	一、三三一、六七五
二、二八三、三三三	一、七六	一、三三五	二、四五一	六、五九三、二六	一、三三一、六七五	六、五九三、二六	一、三三一、六七五	六、五九三、二六	一、三三一、六七五	六、五九三、二六	一、三三一、六七五	六、五九三、二六	一、三三一、六七五

三百五十七

合		前年比較		定額常費										前年比較		合	
計		計		計										計		計	
送		送		送										送		送	
費		費		費										費		費	
與給		與給		與給										與給		與給	
諸諸		諸諸		諸諸										諸諸		諸諸	
雇雇		雇雇		雇雇										雇雇		雇雇	
料料		料料		料料										料料		料料	
費費		費費		費費										費費		費費	
五三一四三四		二八二九六九五二		二五〇八二二										二五〇八二二		二五〇八二二	
二一八〇四三六八		二八二九六九五二		九四八										九四八		九四八	
六六六六一九		二八二九六九五二		一五二六三										一五二六三		一五二六三	
四七六		二八二九六九五二		六六六六一九										六六六六一九		六六六六一九	
三九〇九七		二八二九六九五二		四七六										四七六		四七六	
六五七五		二八二九六九五二		三九〇九七										三九〇九七		三九〇九七	
二五三二二〇二		二八二九六九五二		六五七五										六五七五		六五七五	
四七三五		二八二九六九五二		二五三二二〇二										二五三二二〇二		二五三二二〇二	
五八八一一九五		二八二九六九五二		四七三五										四七三五		四七三五	
四六〇三六三一		二八二九六九五二		五八八一一九五										五八八一一九五		五八八一一九五	
一九〇七六		二八二九六九五二		四六〇三六三一										四六〇三六三一		四六〇三六三一	
一一一五四四五五		二八二九六九五二		一九〇七六										一九〇七六		一九〇七六	
一三、七二八七二五		二八二九六九五二		一一一五四四五五										一一一五四四五五		一一一五四四五五	
五四一		二八二九六九五二		一三、七二八七二五										一三、七二八七二五		一三、七二八七二五	
三四三三七		二八二九六九五二		五四一										五四一		五四一	
三〇二七七五七		二八二九六九五二		三四三三七										三四三三七		三四三三七	
三百五十九		二八二九六九五二		三〇二七七五七										三〇二七七五七		三〇二七七五七	

定 額 常 費										合 計	定 額 常 費										
紙賣捌費			廳中費			給與					紙賣捌費			廳中費			給與				
配賦手數料	原紙買上	需用費	諸雇費	雜費	郵便費	運送費	需用費	恩賞	內國旅費	諸雇給	運送費	配賦手數料	原紙買上	需用費	諸雇費	修繕給	雜費	郵便費	運送費	需用費	
八六九五〇七二	一一八五一四五	一二五五九	三四九三一	一二五	四五二	一一七六四	五一二二四	一四	一七一四	一七一五	一八三八九〇五九	一六六九四三九七	一七九一	八六六六二五二	七三七七七二九	一五二二二	三三三七一	八八	四九	四三二五〇五	一三二七二五

前年比較

減 增

目

同年上田原紙賣捌所諸經費増減比較表

[illegible][illegible]

[illegible]

三百六十三

前年比較		常年額定												前年比較		費		
合		費畜牧		費中廳		與給		費畜牧		費畜牧		合		費畜牧				
減增		運	需	內	諸	修	新	雜	郵	運	需	恩	內	諸	運	需	內	諸
費		送	買	用	旅	給	營	費	信	費	費	實	費	給	費	費	費	給
同年總州香取牧場諸經費增減比較表														同年總州香取牧場諸經費增減比較表				
一八、七七〇七二二														一八、七七〇七二二				
二〇、三三四五九三														二〇、三三四五九三				
一、一二五八九二														一、一二五八九二				
七、三二〇五														七、三二〇五				
一、五〇四二八三														一、五〇四二八三				
三九一五														三九一五				
一、〇〇七一九三														一、〇〇七一九三				
二、四〇八一四九														二、四〇八一四九				
七、〇六二二〇三														七、〇六二二〇三				
六														六				
八八八五														八八八五				
二九六六七														二九六六七				
四七四七														四七四七				
三八														三八				
二五五														二五五				
八五三八四														八五三八四				
一八一〇一														一八一〇一				
四三六四六九														四三六四六九				
二一五七														二一五七				
九六〇四四														九六〇四四				
二二														二二				
九一六七五														九一六七五				

三百六十三

費		常		額		定	
與給	國內	羊	牧	費	費	費	費
諸 內 國 旅 費	諸 內 國 旅 費	諸 內 國 旅 費	諸 內 國 旅 費	諸 內 國 旅 費	諸 內 國 旅 費	諸 內 國 旅 費	諸 內 國 旅 費
一八九二五八	三八七二	一八六五	七七五	八八五七八	八九二〇五	五八二	七四六四八六四
九〇〇〇	二六二八〇六	一三三三七四	八四八七〇八四	六五二二九	四九四八	九〇五	一五六六二八五
九〇八二二四一	三一九一五	二一五七七一七	四四九四〇一	一三七一四五	三八二四三五	六一四七三七	一三五九五二五
二五	三九	二五	二五	二五	二五	二五	二五

三百六十五

費目	合計	定額常費												通費	合計	費系			
		國外入路費			新修儲備			廳中費			給與					需用費	物品買上費	運送費	學資金
		需用費	運送費	宿料費	內國旅費	儲月給	修繕營	新築費	雜費	郵便費	運輸費	需用料費	諸雇給						
同年下總牧羊場諸經費表	七八一六	一七五	一六七六八	二五五四八四	九二八七八	二五五四八三九	一一九八三一	三六三〇四〇九	八九九	五三〇八七	七〇二七六	一二四五	三二七七一四	二五七一四	一八八	一五	四〇二六九	一三七九六五一	四八八四二一七

三百六十四

此係
 本館
 所藏
 之書
 也

前年比較	合	
	計	新
減	六、八八〇・一九	二、四三六・〇六
増	六、四三六・二五	四、六六〇・八四・七二
計	九、四〇一・二六・五九	

三百六十六

驛遞寮

驛遞寮第五次年報

第四次年報ハ會計年度更正ノ故ニ由リ其半年ノ實數ニ二乗
 シテ以テ之レカ假數ヲ作リ聯年計數ノ比較ヲ算出シタリキ
 (事第四次年報ノ首メヨ詳記セリ)然レトモ累年假數ヲ用ヒテ比
 例ヲ立ルハ甚タ計算ノ精眞ヲ失ヒ當時事務ノ實況ヲ謬リ立
 算比較ノ主義ニ戾レリ是ヲ以テ更ニ會計年度ノ月數ヲ逐ヒ
 叙次ニ其歩ヲ後ヘニ推シ明治七年七月一日ヨリ同八年六月
 三十日ニ畢ルノ諸數ヲ精算シ以テ第四次ノ實數ヲ得又明治
 六年七月一日ヨリ同七年六月三十日ニ至ルノ諸計ヲ實算シ
 テ第三次ノ數ヲ取リ以テ本年ノ計數ト比較ヲ算セリ庶幾シ
 ハ既呈ノ年報ト照觀ノト少シク點查ノ煩アルモ大ニ實況ノ
 判察ニ方リ一視明了ノ益アラシク謹テ爰ニ附言ヲ呈ス
 出納比較

明治八年第七月一日ヨリ同九年第六月三十日ニ畢ル壹周年ニ於テ本
 寮へ直チニ収入スル所ノ金額總計ハ郵便稅乃チ郵便切手及ヒ端書封
 皮帶紙等ノ賣下代私書函ノ借料郵便爲替料其他雜種ノ収入ヲ通シテ
 (郵便罰則ニ就テ司法省ニ収メシ金額及ヒ漏船拂代金等豫算外ノ収入
 ナ除キ)五拾九萬五千貳百零壹圓八拾貳錢八厘ニシテ其經費ノ額ハ(貢
 米運漕賃三菱會社ニ下與セル助成金及ヒ商船學校資金ヲ除キ)本寮ヨ
 リ直チニ拂ヒ出シタル總計ハ七拾零萬九千三百貳拾壹圓九拾貳錢五
 厘及ヒ他局ヨリ拂ヒ出シタル刊行費凡精算未濟ニ係ルヲ以テ凡ノ字
 ナ加フ(三千九百貳拾貳圓貳拾六錢八厘此二項ノ合計七拾壹萬三千貳
 百四拾四圓拾九錢三厘ナリ
 右ニ記載スル所ノ収入及ヒ經費ノ兩額ヲ比較スレハ經費ノ收入ニ超
 過スルコト壹拾壹萬八千零四拾貳圓三拾六錢五厘ニシテ即チ壹割九分
 八厘餘ナリ但本寮會計ノ簡一ナルヲ要セシカ爲メ商船管掌及陸路運
 輸ノ事務其他ノ數件ヲ掌レル官員ノ月給及ヒ之ニ屬スル各種ノ費用

モ是ニ合算セルヲ以テ單ニ郵便事務上ノミニ就テ此經費ノ過超ヲ生
 セシモノニ非サルナリ
 昨年即チ第四次ニ於テ本年即チ第五次壹周年ノ收入ヲ豫算セシハ五拾七萬圓
 ナリシニ今此壹周年ノ實収額五拾九萬五千貳百零壹圓八拾貳錢八厘
 ニシテ豫算ノ額ニ比較スレハ貳萬五千貳百零壹圓餘ヲ増加セリ是レ
 線路ノ行程ハ愈々之レカ長キヲ加ヘ往復度數ハ益々之レカ多キヲ添
 ヘ且東京府下ノ如キハ日ニ十回ノ集配ヲ開キ他モ亦隨テ其度ヲ増加
 シ廣ク交際ノ自由ヲ介シ社會一般ノ便ヲ進メ以テ文化ヲ翼成スル明
 治一部ノ好影ヲ此増額ニ照スルヲ見ルナリ
 此壹周年經費ノ實額ハ七拾壹萬三千貳百四拾四圓餘ニシテ豫算ノ費
 額ハ七拾壹萬四千貳百四拾四圓餘ナリ故ニ此兩項ヲ比較スレハ壹千
 圓餘ノ實額ヲ減セリ且昨年第四次年報ニ於テ掲載シタル本年豫算ノ
 額ハ六拾九萬七千圓ナリシニ今茲ニ掲載スルモノハ七拾壹萬四千圓餘
 ノ額ニシテ太々増加ノ差アルヲ以テ若シ其事由ヲ悉了セシムハ必ス